



リリース 9.3.1.1

Oracle® Data Integrator Adapter for Hyperion®  
Essbase®スタート・ガイド

ORACLE | Hyperion

## 目次

練習用サンプル・ファイル.....	2
Essbase サンプル・アプリケーションの前提条件 .....	3
環境の設定.....	3
サンプル・インタフェースを使用したメタデータまたはデータのロード および抽出.....	11
モデルの作成.....	13
インタフェースおよびパッケージの作成.....	22

# 練習用サンプル・ファイル

このドキュメントでは、Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Essbase - System 9に含まれているサンプル・ファイルの使用方法を説明します。サンプル・ファイルは、ユーザーがこのアダプタをよく理解し、アダプタを使用してメタデータやデータをロードおよび抽出し、Essbase固有のその他のタスクを実行する練習を行うために作成されたものです。

サンプル・ファイルはodiaess\_93110\_samples.zipファイル内に含まれており、Cドライブに抽出する必要があります。

## 注意:

サンプル・リポジトリ内のロード・ナレッジ・モジュール (LKM) および統合ナレッジ・モジュール (IKM) のオプションは、絶対パスC:\¥Essbase\_Samplesを使用するように設定されています。odiaess\_93110\_samples.zipを異なるディレクトリに解凍した場合は、C:\¥Essbase\_Samplesを参照するすべてのオプションを変更する必要があります。

CドライブにフォルダEssabase\_Samplesが作成されます。このフォルダには次のフォルダおよびファイルが含まれます。

- Calc\_Scripts。このフォルダには次のファイルが含まれています。
  - calcall.csc
  - ExtData.csc
- Data。このフォルダには次のファイルが含まれています。
  - loadMeasures.csv
  - loadMarkets.csv
  - loadProducts.csv
  - loadDataWithDataAsColumn.csv
  - loadDataWithMeasuresAsColumns.csv
  - extractDataWithDataAsColumn.csv
  - extractDataWithMeasuresAsColumns.csv
  - extractEssbaseMeasures.csv
  - Calcextract.csv
- Essbase\_Rules。このフォルダには次のファイルが含まれています。
  - ACCTPC.rul
  - MKTGEN.rul
  - MRKTPC.rul
  - PRODPC.rul

- MAXL。このフォルダには次のファイルが含まれています。
  - postmxl.mxl
  - premaxl.mxl
- MDX\_Scripts。このフォルダにはMDXExtract.mdxが含まれています。
- Report\_scripts。このフォルダにはextract.repが含まれています。
- Work\_Repository。このフォルダにはWork\_Repository.zipが含まれています。

## Essbaseサンプル・アプリケーションの前提条件

サンプル・ファイルを使用するには、Essbaseのアプリケーションおよびデータベースがインストールされている必要があります。このガイドでは、**Sample**アプリケーションおよび**Basic**データベースを使用します。Essbaseの**Sample**アプリケーションおよび**Basic**データベースがインストールされていない場合は、この両方を作成する必要があります。手順は、『Hyperion Essbase - System 9 Installation Guide for Windows』の第6章「サンプル・アプリケーションの設定」を参照してください。

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Essbaseのドキュメントでは、ユーザーにOracle Data Integratorの使用経験があり、すべてのドキュメントにアクセス可能であることを前提としています。Oracle Data Integratorの最新のドキュメントは、Oracle Technical Network (OTN) のWebサイト

(<http://www.oracle.com/technology/index.html>) の「Documentation」領域からダウンロードできます。

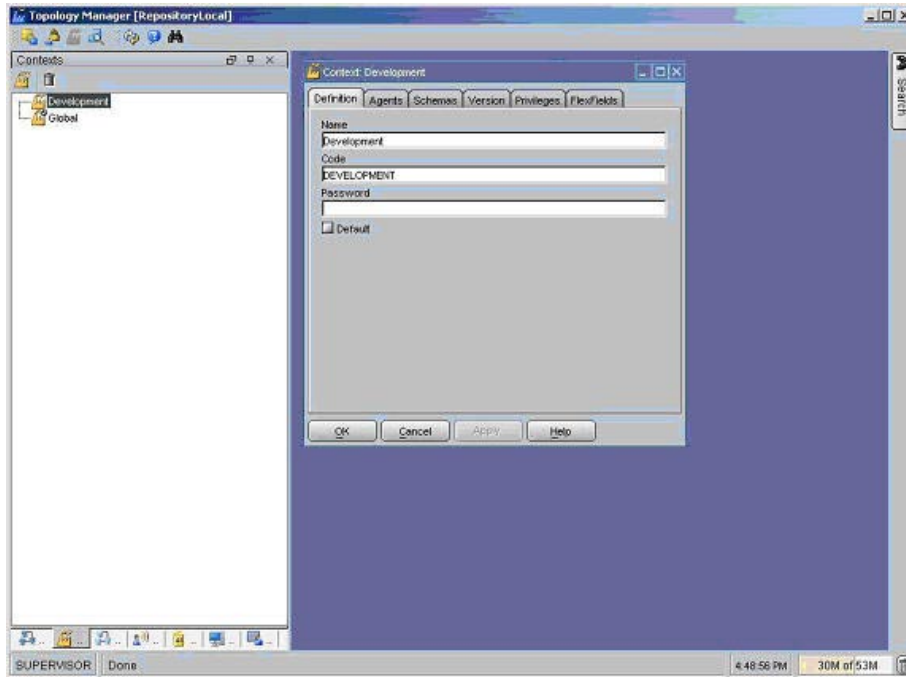
## 環境の設定

サンプル・ファイルからメタデータをロードする前に、次の各項の説明に従って、Oracle Data Integratorでサンプル環境を設定する必要があります。

### コンテキストの作成

トポロジ・マネージャを起動して、図1のようにDevelopmentというコンテキストを作成します。手順は『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

図1 コンテキストの作成



## Essbaseデータ・サーバーの設定

Oracle Data Integratorを使用して、Hyperion Essbaseテクノロジー用のデータ・サーバーを作成し、このデータ・サーバーの物理スキーマおよび論理スキーマを作成します。

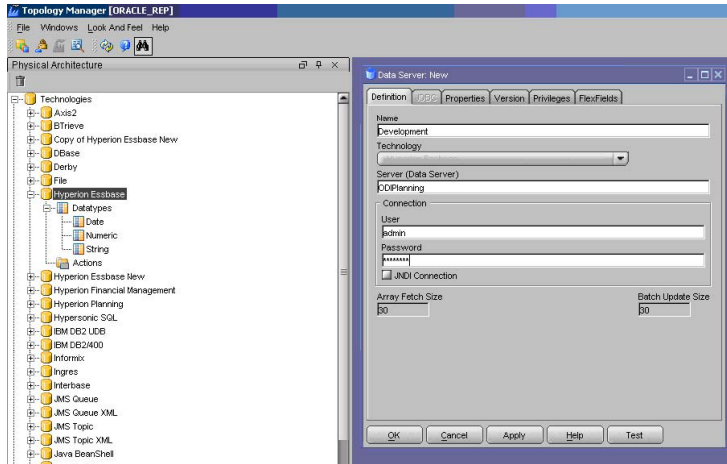
データ・サーバーの作成に関する詳細は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- ▶ Essbase のデータ・サーバーを設定するには、次のようにします。
- 1 トポロジ・マネージャを使用して、Hyperion Essbaseテクノロジーの下にデータ・サーバーを作成します。

### 注意:

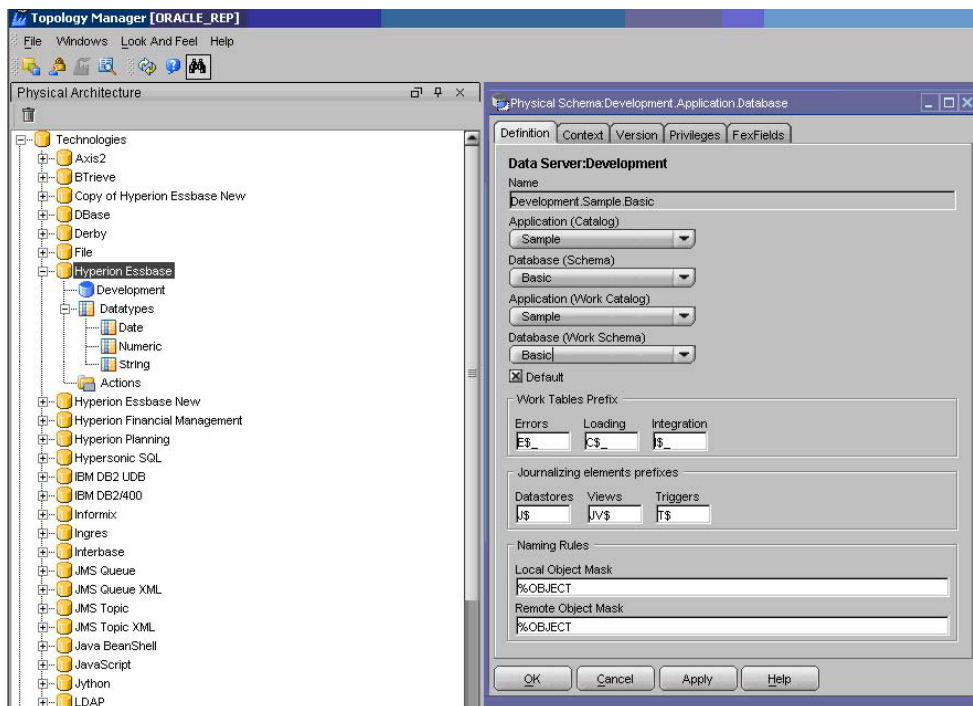
トポロジ・マネージャにHyperion Essbaseテクノロジーが表示されない場合は、Hyperion Essbaseテクノロジーをインポートする必要があります。手順は『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- 2 「名前」にデータ・サーバーの名前としてDevelopmentを入力します。



- 3 データ・サーバーの設定に必要な情報を指定して、「OK」をクリックします。
- 4 Essbaseアプリケーションを指定するための物理スキーマを作成します。

次の図では、物理スキーマはSampleアプリケーションおよびBasicデータベースを指定しています。



- 5 「コンテキスト」で次の手順を行います。
  - a. 「コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
  - b. 論理スキーマ名としてSampleEssbaseを入力します。

**注意:**

論理スキーマに異なる名前を付ける場合は、その名前を指定するように、モデルおよびインタフェースを更新してください。この更新を行わない場合、作業リポジトリのインポート後にパッケージおよびインタフェースを実行できなくなる可能性があります。

- c. 「OK」をクリックします。

データ・サーバーの設定に関する詳細は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

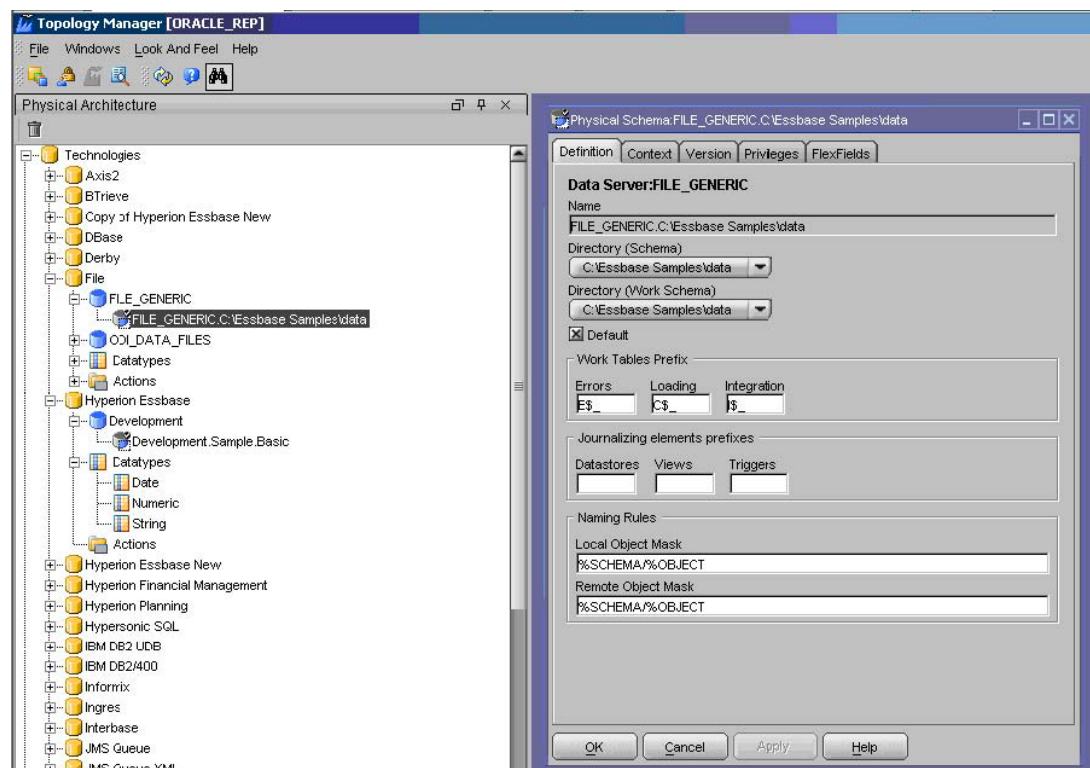
## File物理スキーマの設定

Oracle Data Integratorを使用して、Fileテクノロジーの物理スキーマを作成し、Fileデータ・サーバーの物理スキーマを作成します。

**注意:**

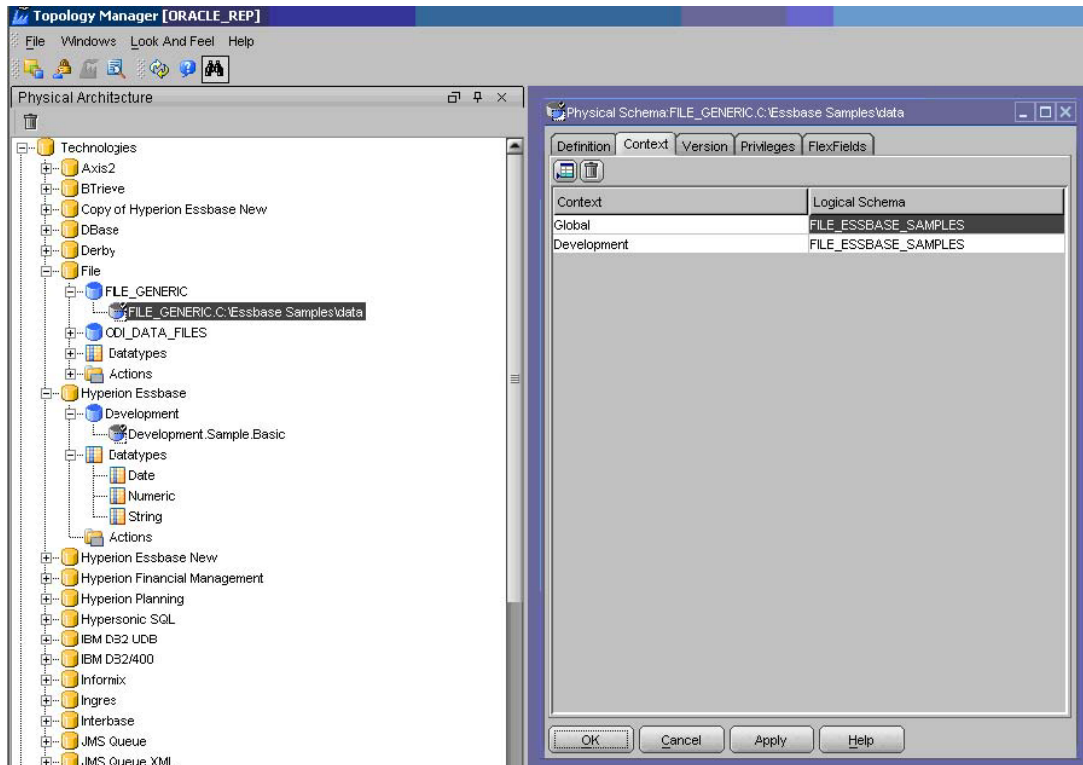
サンプルのソースがデリミタ付きフラット・ファイルであるため、この手順を行う必要があります。

- ▶ File の物理スキーマを設定するには、次のようにします。
  - 1 トポロジ・マネージャを使用して、Fileテクノロジーの下にFILE\_GENERICデータ・サーバー用の物理スキーマを作成します。
  - 2 次の図のように、ディレクトリ(スキーマ)で(odiaess\_93110\_samples.zipから抽出された) dataディレクトリを選択します。



このdataフォルダにはサンプル・ソース・ファイルが含まれます。

- 3 「コンテキスト」で次の手順を行います。
  - a. 「コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
  - b. 次の図のように、「論理スキーマ」にFILE\_ESSBASE\_SAMPLESと入力します。



- c. 「OK」をクリックします。

## Sunopsisエンジン物理スキーマの構成

リレーショナル・データベース形式でデータが格納されないソースおよびターゲットのインタフェースを作成する際には、ソースまたはターゲット以外のステージング領域を選択する必要があります。選択肢の1つとして、Oracle Data Integratorのステージング領域であるSunopsisメモリー・エンジンを構成して使用できます。

- ▶ Sunopsisメモリー・エンジンを構成するには、次のようにします。
  - 1 トポロジ・マネージャを使用して、「テクノロジー」の下で「Sunopsis Engine」→「SUNOPSIS\_MEMORY\_ENGINE」→「SUNOPSIS\_MEMORY\_ENGINE\_Default」に移動し、「SUNOPSIS\_MEMORY\_ENGINE\_Default」を右クリックして「編集」をクリックします。
  - 2 「コンテキスト」で、新しい行を挿入し、「コンテキスト」をDevelopment、「論理スキーマ」をSUNOPSIS\_MEMORY\_ENGINEにそれぞれ設定して、「OK」をクリックします。

## 作業リポジトリの設定

Oracle Data Integrator Adapter for Essbaseに含まれている `odiaess_93110_samples.zip`には、`Work_Repository.zip`という作業リポジトリ・エクスポート・ファイルが含まれています (`odiaess_93110_samples.zip`の詳細は、2ページの「[練習用サンプル・ファイル](#)」を参照してください)。

`odiaess_93110_samples.zip`ファイルには、Oracle Data Integratorのモデル、インタフェース、パッケージの他に、サンプルのEssbaseアプリケーションでメタデータやデータをロードおよび抽出するために必要なナレッジ・モジュール (KM) が含まれています。Oracle Data Integratorを使用して、Adapter for Essbaseのサンプルで使用する作業リポジトリを作成し、`Work_Repository.zip`を作業リポジトリにインポートします。

- ▶ 作業リポジトリを設定するには、次のようにします。
- 1 トポロジ・マネージャを使用して、マスター・リポジトリに接続し、`ODI_ESSBASE_SAMPLE`という名前の作業リポジトリを作成します。手順は『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- 2 デザイナを起動して、`ODI_ESSBASE_SAMPLE`作業リポジトリに接続します。
- 3 「ファイル」→「インポート」→「作業リポジトリ」を選択します。
- 4 インポート・モードを選択します。  
推奨されるモードは`INSERT_UPDATE`です。
- 5 「ZIPファイルからのインポート」を選択して、`Work_Repository.zip`が含まれているフォルダにナビゲートし、「OK」をクリックします。

次のインタフェースが作業リポジトリに追加されます。

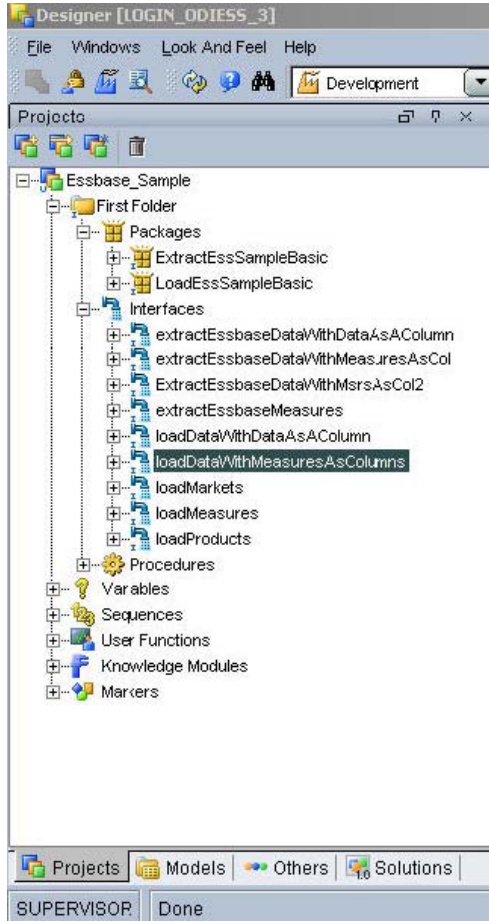
- `loadMeasures`
- `loadProducts`
- `loadMarkets`
- `loadDataWithDataAsAColumn`
- `loadDataWithMeasuresAsColumns`
- `extractEssbaseDataWithDataAsAColumn`
- `extractEssbaseDataWithMeasuresAsCol`
- `extractEssbaseDataWithMsrsAsCol2`
- `extractEssbaseMeasures`

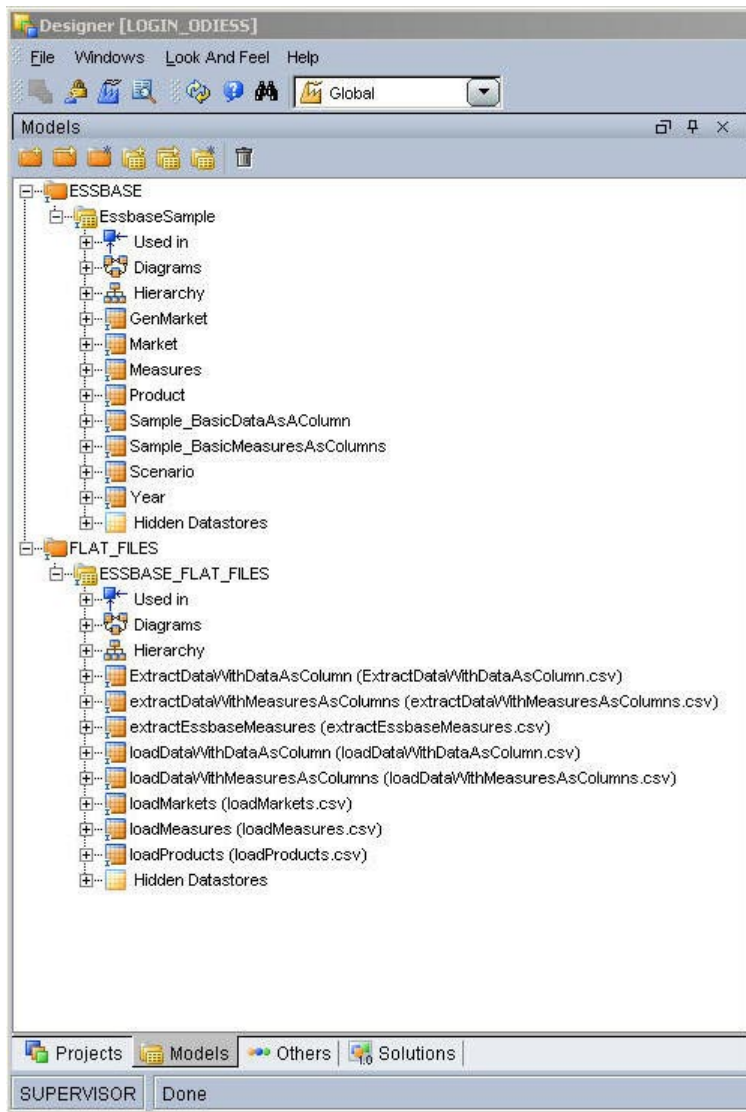
このインポートにより、次の2つのパッケージも追加されます。

- `LoadEssSampleBasic`。メタデータおよびデータをロードするためのインタフェースをつなぎ合せます。
- `ExtractEssSampleBasic`。データおよびメンバーを抽出するためのインタフェースをつなぎ合せます。



次の図は、インポートに成功した場合の「プロジェクト」ツリーおよび「モデル」ツリーの外観を示しています。





# サンプル・インタフェースを使用したメタデータまたはデータのロードおよび抽出

作業リポジトリは環境の一部として設定されており、Essbaseアプリケーションからメタデータやデータをロードおよび抽出するためのインタフェースが含まれています。

## サンプル・アプリケーションへのメタデータのロード

次の各項の手順に従って、EssbaseのSampleアプリケーションにメタデータをロードします。

### Measuresディメンションのメタデータのロード

サンプル・ファイルには、Measuresディメンションにメタデータをロードする、loadMeasuresというインタフェースが含まれています。

#### 注意:

このインタフェースまたは類似したその他のインタフェースの作成手順は、22ページの「[メタデータをロードするためのインタフェースの作成](#)」を参照してください。

- ▶ Measures ディメンションにメタデータをロードするには、次のようにします。
  - 1 loadMeasuresインタフェースを実行します。
  - 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
  - 3 OracleのEssbase Administration Services WindowsクライアントからMeasuresディメンションを検証します。

### Productsディメンションのメタデータのロード

サンプル・ファイルには、Productsディメンションにメタデータをロードする、loadProductsというインタフェースが含まれています。

- ▶ Products ディメンションにメタデータをロードするには、次のようにします。
  - 1 loadProductsインタフェースを実行します。
  - 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
  - 3 Administration Services WindowsクライアントからProductディメンションを検証します。

### Marketsディメンションのメタデータのロード

サンプル・ファイルには、Marketsディメンションにメタデータをロードする、loadMarketsというインタフェースが含まれています。

- ▶ Markets ディメンションにメタデータをロードするには、次のようにします。
- 1 loadMarketsインタフェースを実行します。
- 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
- 3 Administration Services WindowsクライアントからMarketsディメンションを検証します。

## サンプル・アプリケーションへのデータのロード

練習用に提供されているサンプル・ファイルには、データをロードするための2つのインタフェースが含まれています。

- loadDataWithDataAsAColumn
- loadDataWithMeasuresAsColumns

これらのインタフェースを使用して、EssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースにデータをロードします。

### 注意:

次の手順を完了する前に、EssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースに、必要なメタデータが含まれていることを確認してください。必要なメタデータが含まれていない場合は、『Hyperion Essbase - System 9 Installation Guide for Windows』の第6章「サンプル・アプリケーションの設定」の説明に従ってメタデータをロードしてください。

- ▶ Essbase の Sample アプリケーションおよび Basic データベースにデータをロードするには、次のようにします。
- 1 loadDataWithDataAsAColumnまたはloadDataWithMeasuresAsColumnsのどちらかのインタフェースを実行します。
- 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
- 3 Administration Services Windowsクライアントからデータ・ロードを検証します。

## サンプル・アプリケーションからのデータの抽出

練習用に提供されているサンプル・ファイルには、EssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースからデータを抽出してファイルに書き込むための3つのインタフェースが含まれています。

- extractEssbaseDataWithDataAsAColumn (Essbaseのレポート・スクリプトを使用してデータを抽出します。)
- extractEssbaseDataWithMeasuresAsCol (Essbaseのレポート・スクリプト問合せを使用してデータを抽出します。)
- ExtractEssbaseDataWithMsrAsCol2 (EssbaseのMDX問合せを使用してデータを抽出します。)

- ▶ Essbase の Sample アプリケーションおよび Basic データベースからデータを抽出するには、次のようにします。
- 1 extractEssbaseDataWithDataAsAColumn、extractEssbaseDataWithMeasuresAsColまたは ExtractEssbaseDataWithMsrsAsCol2のいずれかのインタフェースを実行します。
- 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
- 3 (odiaess\_93110\_samples.zipから抽出された) dataディレクトリのファイル extractData.datで、抽出されたデータを検証します。

## サンプル・アプリケーションからのメタデータの抽出

練習用に提供されているサンプル・ファイルには、EssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースのMeasuresディメンションからメタデータを抽出してファイルに書き込む、extractEssbaseMeasuresというインタフェースが含まれています。

- ▶ Essbase の Sample アプリケーションおよび Basic データベースからメタデータを抽出するには、次のようにします。
- 1 extractEssbaseMeasuresインタフェースを実行します。
- 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
- 3 (odiaess\_93110\_samples.zipから抽出された) dataディレクトリのファイル extractEssbaseMeasures.csvで、抽出されたデータを検証します。

## モデルの作成

インタフェースを作成する前に、ソース・モデルおよびターゲット・モデルを作成する必要があります。

## サンプル・ソース・モデルの作成およびリバースエンジニアリング

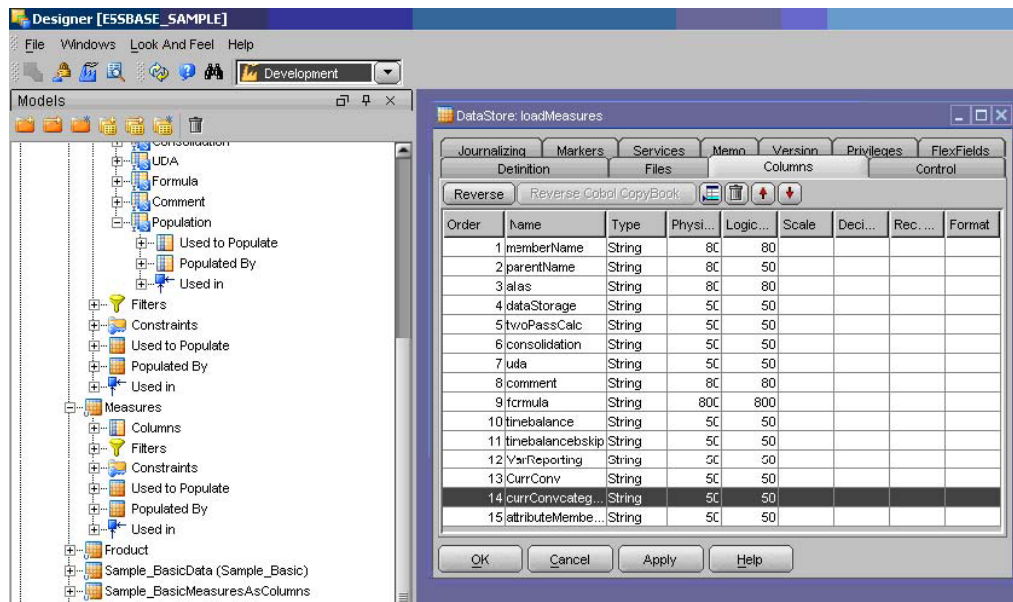
Oracle Data Integratorデザイナを使用して、Essbaseのサンプル・ソース・モデルの作成およびリバースエンジニアリングを行います。

- ▶ サンプル・ソース・モデルの作成およびリバースエンジニアリングを行うには、次のようにします。
- 1 「モデル」ビューで、FLAT\_FILESという新規モデル・フォルダを挿入します。
- 2 このFLAT\_FILESモデル・フォルダを右クリックして「モデルの挿入」を選択します。
- 3 このモデルにESSBASE\_FLAT\_FILESという名前を付け、「テクノロジー」をFile、「論理スキーマ」を

FILE\_ESSBASE\_SAMPLESにそれぞれ設定します。

- 4 「リバース」で「コンテキスト」をDevelopmentに設定し、「OK」をクリックします。
- 5 ESSBASE\_FLAT\_FILESを右クリックして「データストアの挿入」を選択します。
- 6 定義対象のファイル・ソースに応じて、「名前」をloadMeasures、loadProducts、loadMarkets、loadDataWithDataAsColumnまたはloadDataWithMeasuresAsColumnsに設定します。
- 7 「リソース名」の横の「参照」をクリックして、定義対象のソースのファイル(loadMeasures、loadProducts、loadMarkets、loadDataWithDataAsColumnまたはloadDataWithMeasuresAsColumns)を選択します。
- 8 「ファイル」で「ファイル形式」を「区切り」、「ヘッダー(行数)」を1にそれぞれ設定し、「フィールド・セパレータ」を.txtおよび.csvファイルの場合は「,」(カンマ)、.datファイルの場合は「;」(セミコロン)に設定します。
- 9 「列」で「リバース」をクリックします。

次の図は、このページの外観を示しています。

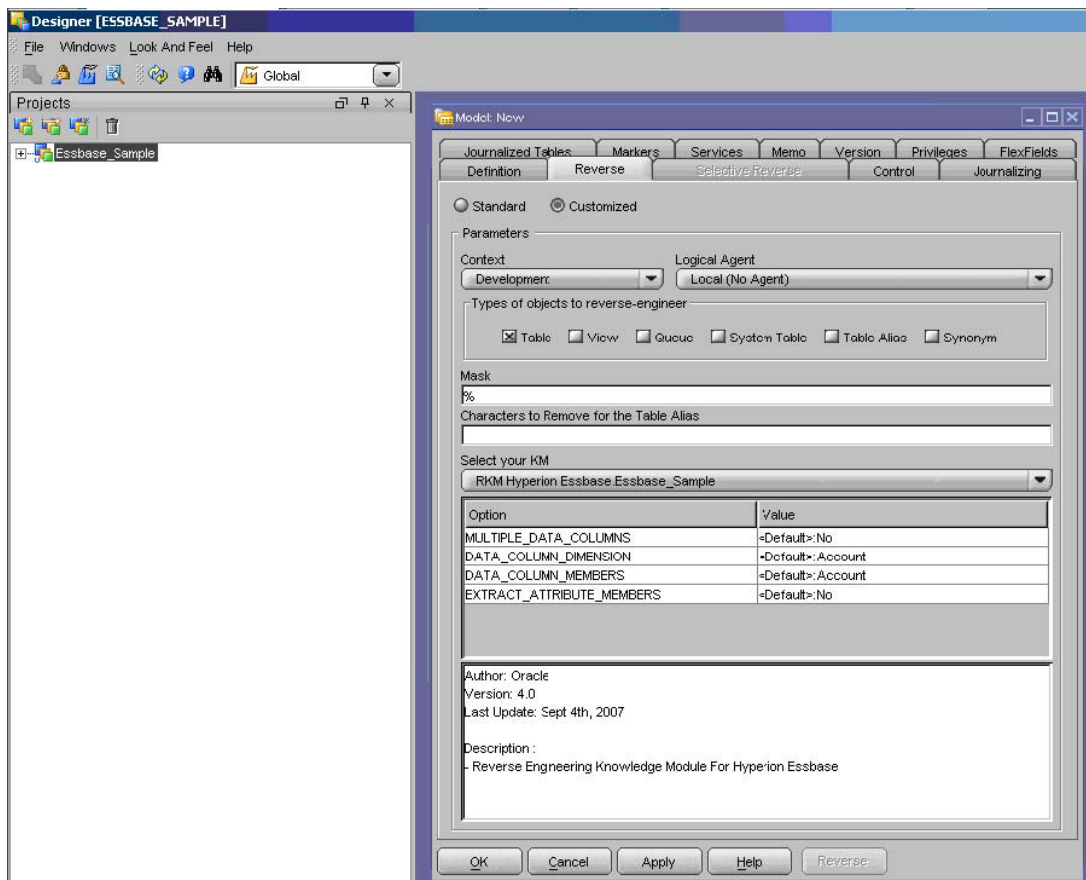


- 10 Essbaseアプリケーションの数値フィールドに対応するフィールドが数値として設定されており、長さおよびスケールが正しいことを確認します。
- 11 残りの各ファイル・ソースに対して、手順5~10を繰り返します。

# サンプル・ターゲット・モデルの作成およびリバースエンジニアリング

Oracle Data Integratorデザイナーを使用して、Adapter for Essbaseのターゲット・モデルの作成およびリバースエンジニアリングを行います。

- ▶ サンプル・ターゲット・モデルのリバースエンジニアリングを行うには、次のようにします。
- 1 「モデル」ビューで、ESSBASEという新規モデル・フォルダを挿入します。
- 2 このESSBASEモデル・フォルダを右クリックして「モデルの挿入」を選択します。
- 3 モデルにEssbaseSampleという名前を付け、「テクノロジー」をHyperion Essbase、「論理スキーマ」をSampleEssbaseにそれぞれ設定します。
- 4 「リバース」で、(ページ最上部の)「カスタマイズ済」を選択します。
- 5 次の図のように、「コンテキスト」をDevelopmentに設定し、RKM Hyperion Essbase.Essbase\_Sampleを選択します。



- 6 これらのリバースエンジニアリング・ナレッジ・モジュール(RKM)オプションを設定します。



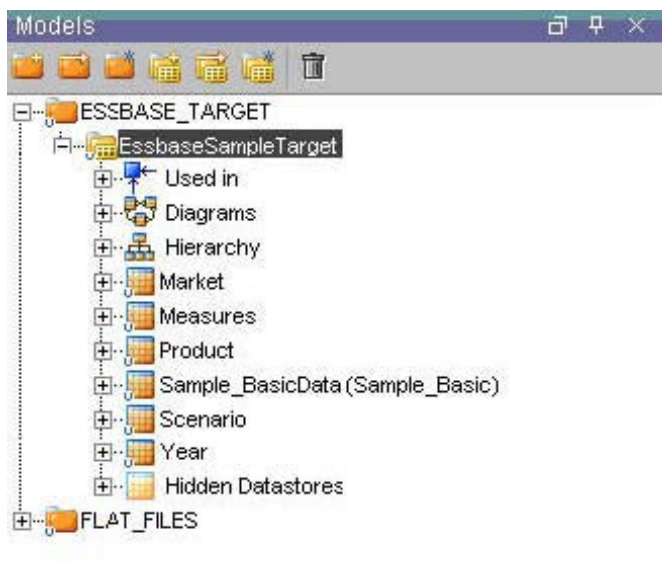
オプション	値	説明
MULTIPLE_DATA_COLUMNS	No (デフォルト)	<p>このオプションをNoに設定した場合、データ抽出モデルまたはデータ・ロード・モデルに対して作成されたデータストアには、標準のディメンションごとに1つの列、および単一のデータ列が含まれます。このオプションをYesに設定した場合、データ抽出モデルまたはデータ・ロード・モデルに対して作成されたデータストアには、DATA_COLUMN_DIMENSIONオプションで指定されたものを除く標準のディメンションごとに1つの列、およびDATA_COLUMN_MEMBERSオプションのカンマ区切りのリストで指定された数のデータ列が含まれます。</p>
DATA_COLUMN_DIMENSION	Account (デフォルト)	<p>このオプションが適用されるのは、MULTIPLE_DATA_COLUMNSがYesに設定されている場合のみです。</p> <p>データ列のディメンション名を指定します。</p> <p>たとえば、データ列はAccountやTimeなどのディメンションに展開されます。</p>
DATA_COLUMN_MEMBERS	Account (デフォルト)	<p>このオプションが適用されるのは、MULTIPLE_DATA_COLUMNSがYesに設定されている場合のみです。</p> <p>必要なデータ列のメンバーを「,」（カンマ）で区切ります。</p> <p>たとえば、データ列のディメンションがAccount、メンバーが「Sales,COGS」にそれぞれ設定されている場合、データ抽出またはデータ・ロードのデータストアには、そのデータ列のディメンションを除く各ディメンションに対して1つの列、およびカンマ区切りの値で指定されたデータ列のメンバーごとに1つの列が含まれます。次に例を示します。EssbaseアプリケーションにAccount、Scenario、Product、MarketおよびYearというディメンションがあり、データ列のディメンションがAccount、データ列のメンバーが「Sales,COGS」としてそれぞれ指定されていると仮定した場合、データストアには次の列が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Scenario (文字列)</li> <li>● Product (文字列)</li> <li>● Market (文字列)</li> <li>● Year (文字列)</li> <li>● Sales (数値)</li> <li>● COGS (数値)</li> </ul>



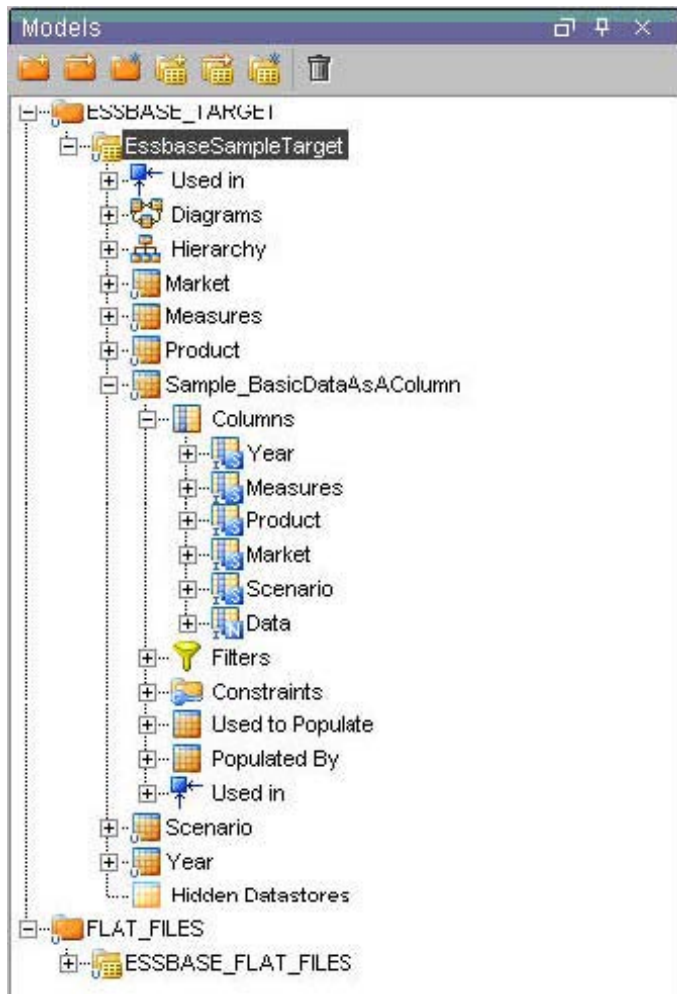
オプション	値	説明
EXTRACT_ATTRIB UTE_MEMBERS	No	<p>このオプションをNoに設定した場合、データ抽出モデルまたはデータ・ロード・モデルに対して作成されたデータストアには、標準のディメンションごとに1つの列、および単一のデータ列が含まれます。属性ディメンションは含まれません。</p> <p>このオプションをYesに設定した場合、データ・モデルには次の列が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準のディメンションごとに1つの列が作成されます。</li> <li>● MULTIPLE_DATA_COLUMNオプションの値に応じて、1つ以上のデータ列が作成されます。</li> <li>● 関連付けられている属性ディメンションごとに1つの列が作成されます。</li> </ul>

7 「リバース」をクリックし、変更を検証するために「はい」をクリックして、「OK」をクリックします。

次の図は、リバースエンジニアリングに成功した場合のEssbaseSampleモデルの表示を示しています。

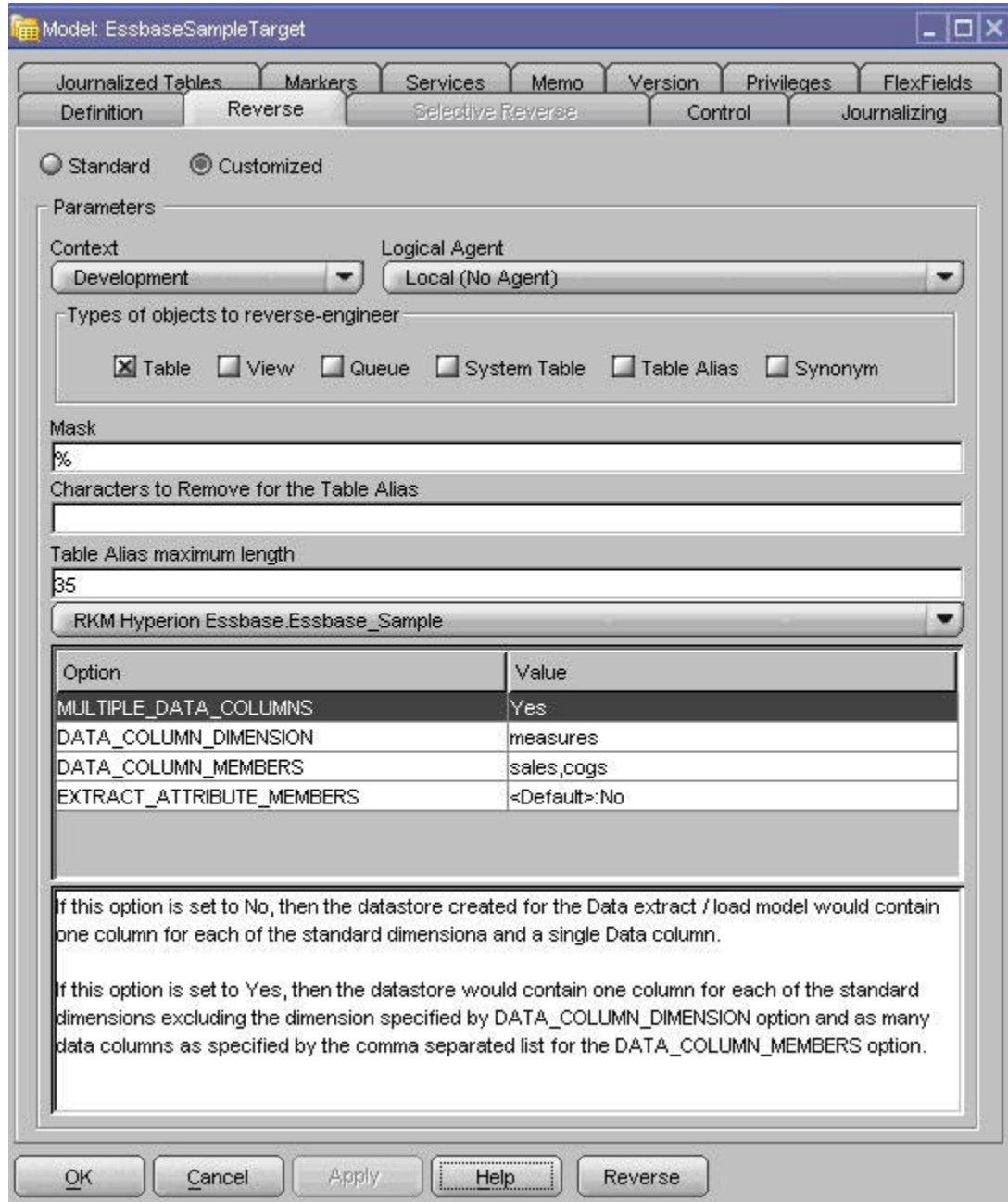


8 このサンプルから、データ・ロード列としてMeasuresを使用するロードを実際に示すために、別のデータ・ロード・ターゲットがリバースされます。まず、既存のSample\_BasicDataターゲットの名前をSample\_BasicDataAsAColumnに変更します。これを行うには、Sample\_BasicDataターゲットを右クリックして「編集」をクリックし、フィールド、名前、別名およびリソースをSample\_BasicDataAsAColumnに変更します。EssbaseSampleモデルに次のディメンションが含まれます。



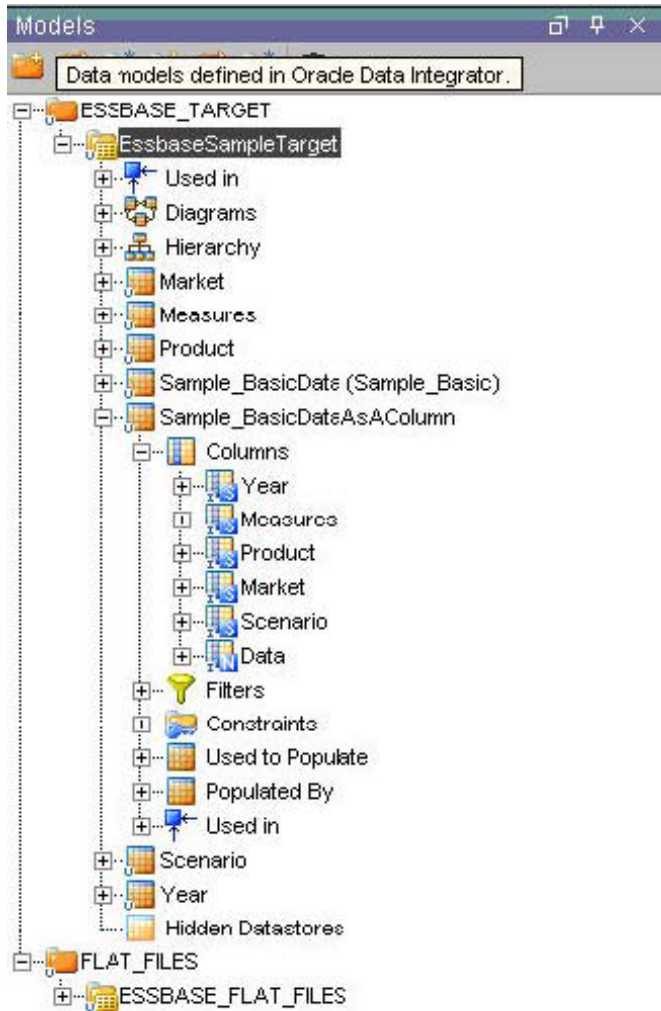
- 9 新規のデータ・ロード・ターゲットをリバースするために、EssbaseSampleを右クリックして「編集」をクリックします。

- 10 「リバース」をクリックして、RKMオプションを次の図に示す値に変更します。

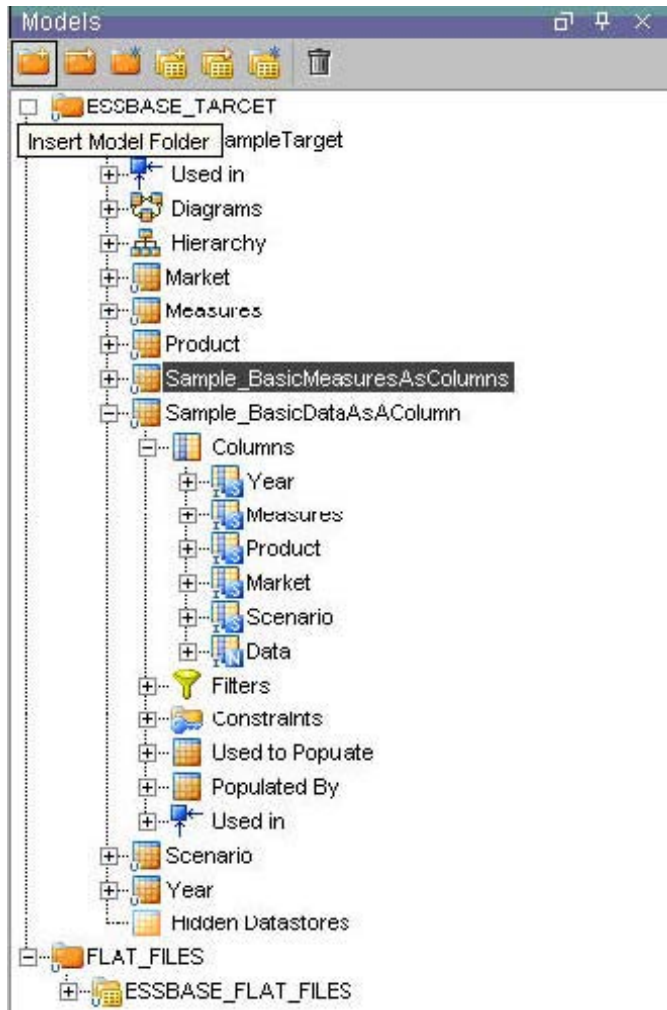


- 11 「リバース」をクリックし、変更を検証するために「はい」をクリックして、「OK」をクリックします。

次の図は、リバースエンジニアリングに成功した場合のEssbaseSampleモデルの表示を示しています。



- 12 まず、既存のSample\_BasicDataターゲットの名前をSample\_BasicMeasuresAsColumnsに変更します。これを行うには、Sample\_BasicDataターゲットを右クリックして「編集」をクリックし、フィールド、名前、別名およびリソースをSample\_BasicMeasuresAsColumnsに変更します。EssbaseSampleモデルに次のディメンションが含まれます。



EssbaseSampleモデルが表示されない場合は、オペレータのログをチェックしてリバースエンジニアリングが失敗した原因を突き止めます。

# インタフェースおよびパッケージの作成

## メタデータをロードするためのインタフェースの作成

MeasuresディメンションをEssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースにロードするためのインタフェースを作成できます。このインタフェースをモデルとして使用して、ProductsおよびMarketsの各ディメンションおよび対応するソースとターゲットをロードするためのインタフェースを作成できます。

これらのインタフェースをつなぎ合わせて1つのパッケージにして、単一の処理で実行できるようにすることも可能です。30ページの「[メタデータおよびデータをロードするためのパッケージの作成](#)」を参照してください。

- ▶ Measuresディメンションをロードするためのインタフェースを作成するには、次のようにします。
  - 1 デザイナを起動して、Essbase\_Sampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。
  - 2 「インタフェース」を右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
  - 3 インタフェースにloadMeasuresという名前を付け、「最適化コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
  - 4 「ターゲットと異なるステージング領域」を選択して、環境に適したステージング領域を選択します。

### 注意:

トポロジ内でステージング領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステージング領域として使用してください。7ページの「[Sunopsisエンジン物理スキーマの構成](#)」を参照してください。

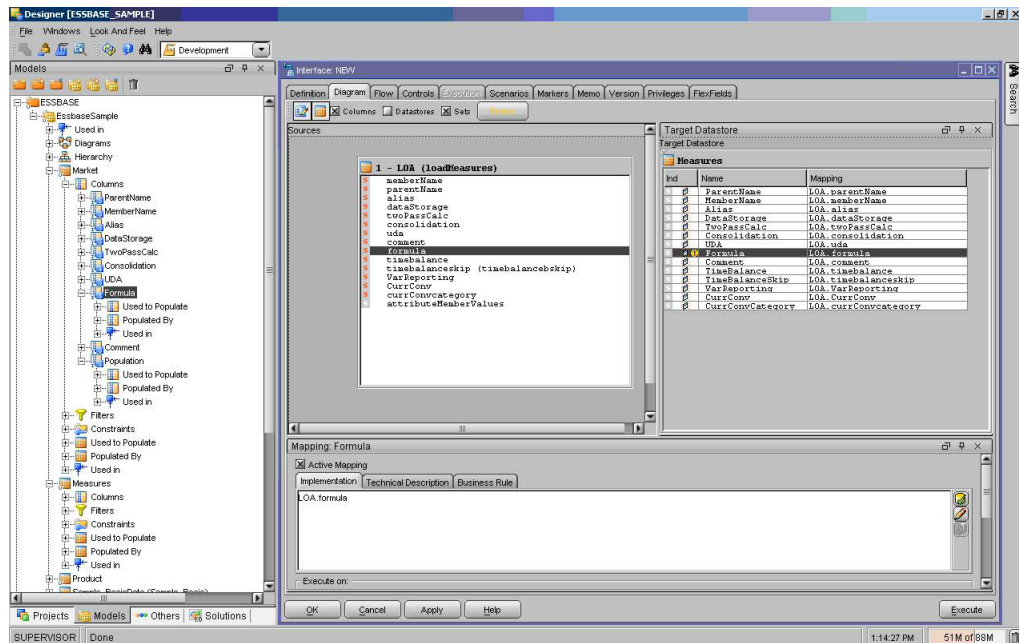
- 5 「ダイアグラム」を選択します。
- 6 「モデル」ビューで、EssbaseまたはEssbaseSampleモデルから「ターゲット・データストア」ペインへ、Measuresデータストアをドラッグします。
- 7 FLAT\_FILESまたはESSBASE\_FLAT\_FILESモデルから「ソース」領域へ、loadMeasuresソースをドラッグします。

自動マッピングを使用するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。

- 8 「はい」をクリックします。

9 自動でマップされなかった列を手動でマップします。

次の図は、このページの外観を示しています。



10 「フロー」で「SS\_0」を選択し、LKMがLKM File to SQLに設定されていることを確認します。

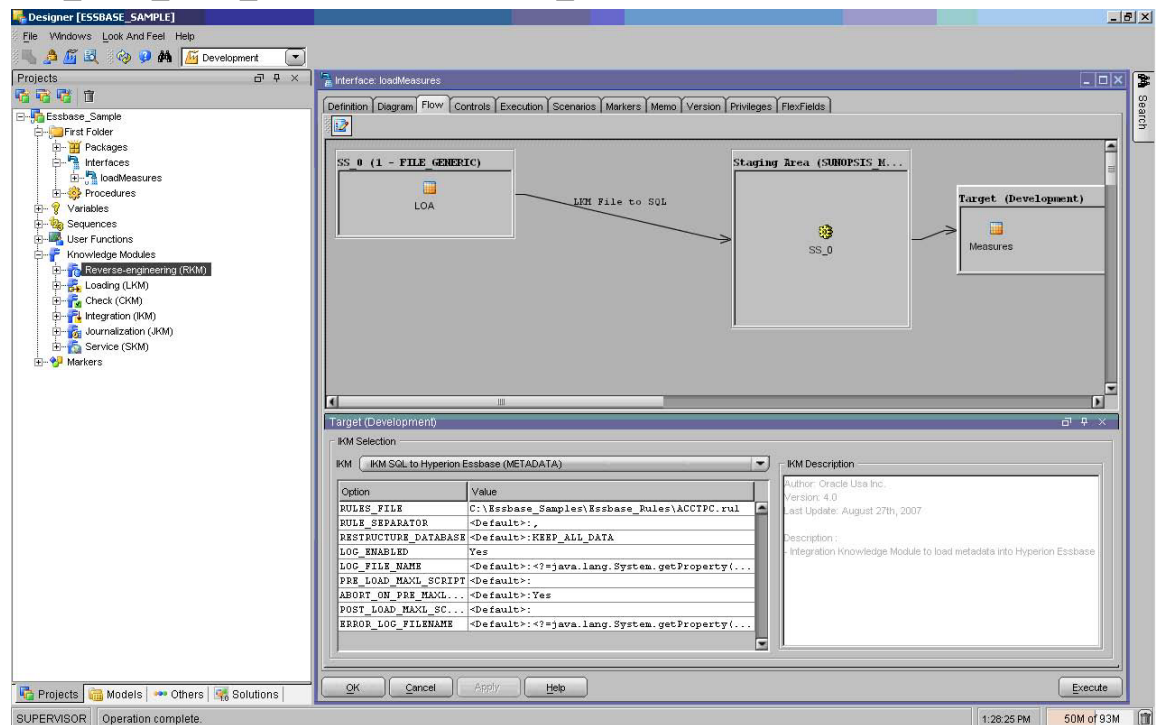
11 「ターゲット」を選択して、IKMがIKM SQL to Hyperion Essbase (METADATA)に設定されていることを確認します。



- 12 これらの統合ナレッジ・モジュール (IKM) オプションを設定します。

```
RULES_FILE C:\Essbase_Samples\Essbase_Rules\ACCTPC.rul
```

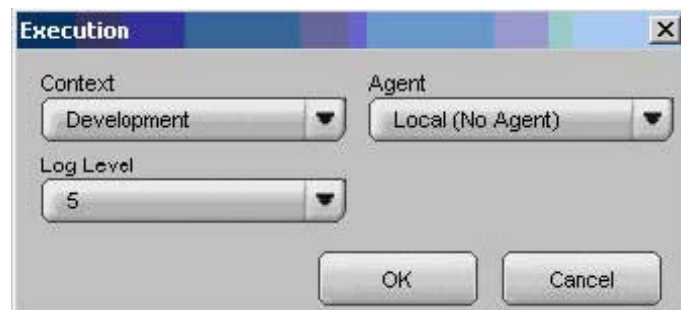
```
PRE_LOAD_MAXL_SCRIPT C:\Essbase_Samples\MAXL\premaxl.mxl
```



**注意:**

各メタデータ・ロードのルール・ファイルは、odiaess\_93110\_samples.zipファイルのrulesディレクトリに含まれています。MAXLファイルもodiaess\_93110\_samples.zipファイルのMAXLディレクトリに含まれています。

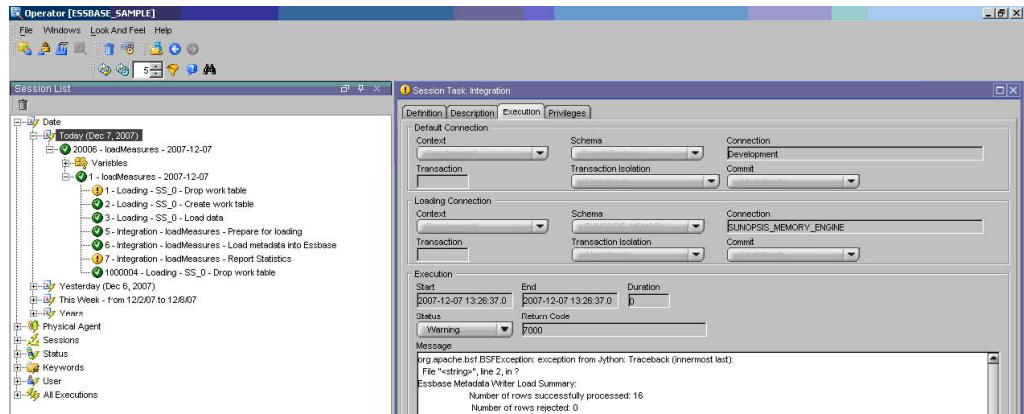
- 13 「適用」をクリックします。
- 14 「実行」をクリックしてLoadMeasuresインタフェースを実行し、「コンテキスト」でDevelopmentを選択します。





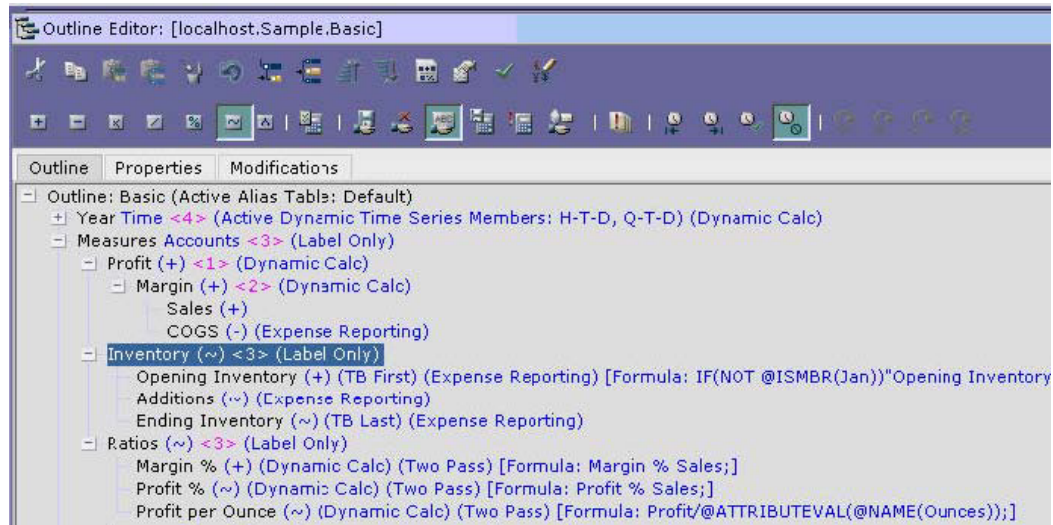
## 15 Oracle Data Integratorオペレータで、インタフェースの実行結果を確認します。

次の図は、結果の外観を示しています。



## 16 OracleのEssbase Administration ServicesクライアントからMeasuresディメンションを検証します。

次の図は、Essbaseで作成された階層を示しています。



## データをロードおよび計算するためのインタフェースの作成（ロード・ファイル形式 - データを列とする場合）

- ▶ データをロードおよび統合するためのインタフェースを作成するには、次のようになります。

  - 1 デザイナを起動して、EssbaseSampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。
  - 2 右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
  - 3 インタフェースにloadDataWithDataAsAColumnという名前を付け、「最適化コンテキスト」をDevelopmentに設定します。

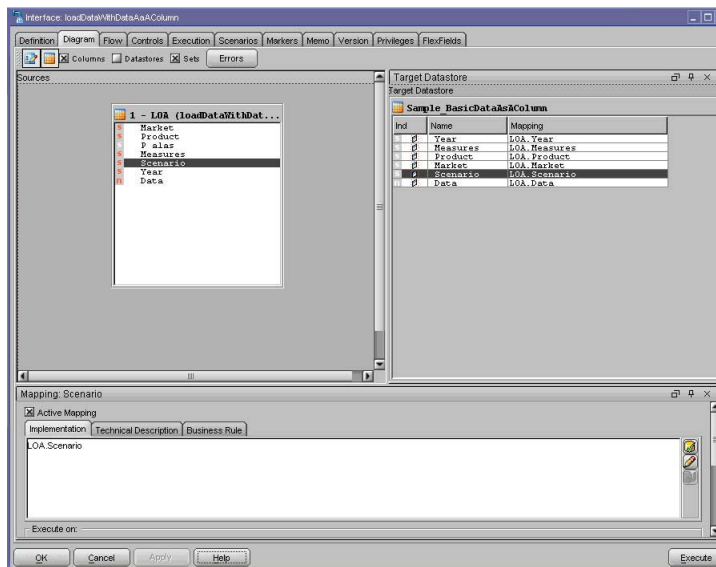
- 4 「ターゲットと異なるステージング領域」を選択して、環境に適したステージング領域を選択します。

**注意:**

トポロジ内でステージング領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステージング領域として使用してください。7ページの「Sunopsisエンジン物理スキーマの構成」を参照してください。

- 5 「ダイアグラム」を選択します。
- 6 「モデル」ビューで、ESSBASEまたはEssbaseSampleモデルから「ターゲット・データストア」ペインへ、Sample\_BasicDataAsAColumnデータストアをドラッグします。
- 7 FLAT\_FILESまたはESSBASE\_FLAT\_FILESモデルから「ソース」領域へ、loadDataWithDataAsColumnソースをドラッグします。  
自動マッピングを使用するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。
- 8 「はい」をクリックします。
- 9 自動でマップされなかった列を手動でマップします。

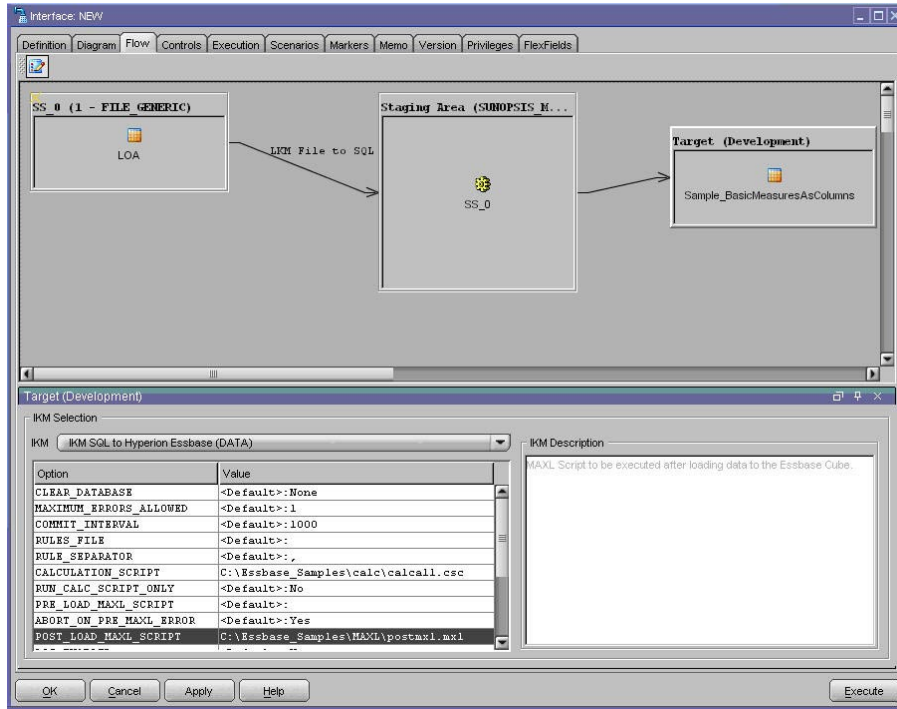
作業終了時のページの外観は、次の図のようになります。



- 10 「フロー」で「SS\_0」を選択し、LKMがLKM File to SQLに設定されていることを確認します。
- 11 「ターゲット」を選択して、IKMがIKM SQL to Hyperion Essbase (Data)に設定されていることを確認します。

12 次のIKMオプションを設定します。

- CALCULATION\_SCRIPT C:¥Essbase\_Samples¥Calc\_Scripts¥calcall.csc
- POST\_LOAD\_MAXL\_SCRIPT C:¥Essbase\_Samples¥MAXL¥postmxl.mxl

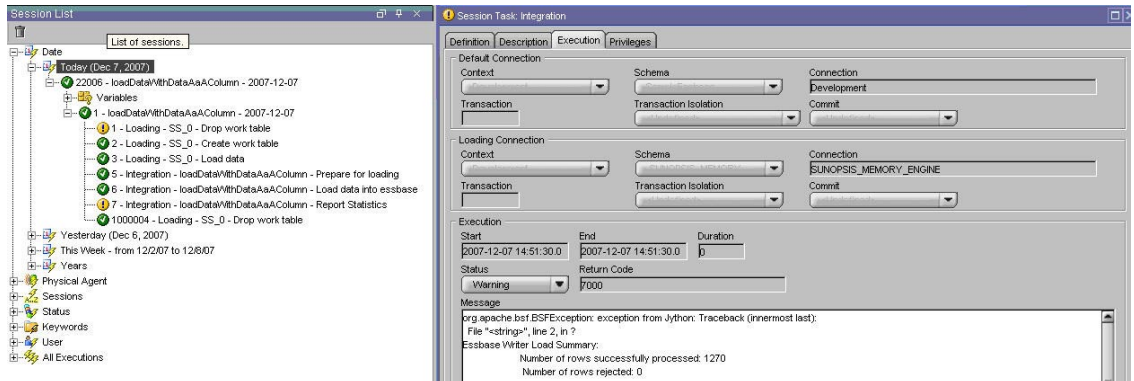


13 「適用」をクリックします。

14 「実行」をクリックしてloadDataWithDataAsAColumnインタフェースを実行し、コンテキストとしてDevelopmentを選択します。

15 Oracle Data Integratorオペレータで、インタフェースの実行結果を確認します。

次の図は、結果の外観を示しています。



## データをロードおよび計算するためのインタフェースの作成（ロード・ファイル形式 - Measuresを列とする場合）

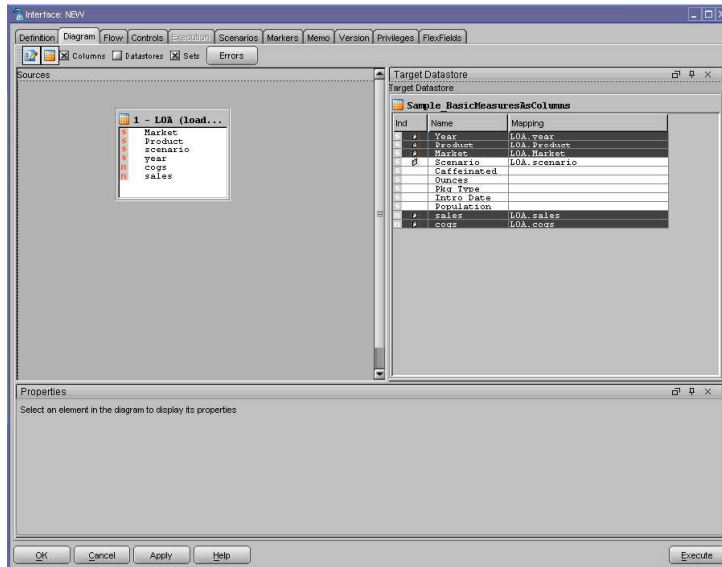
- ▶ データをロードおよび統合するためのインタフェースを作成するには、次のようにします。
- 1 デザイナを起動して、EssbaseSampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。
- 2 右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
- 3 インタフェースにloadDataWithMeasuresAsColumnsという名前を付け、「最適化コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
- 4 「ターゲットと異なるステージング領域」を選択して、環境に適したステージング領域を選択します。

### 注意:

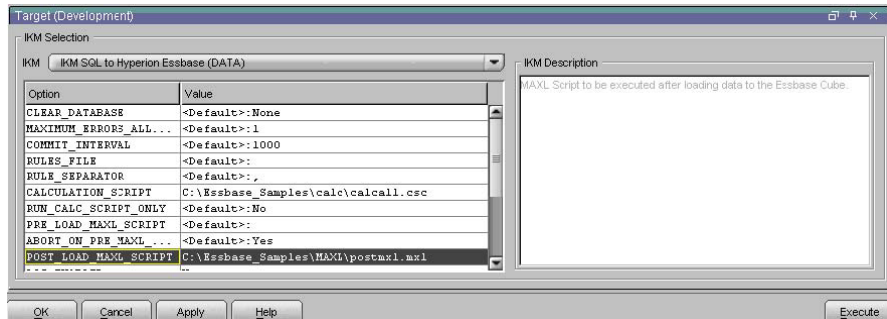
トポロジ内でステージング領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステージング領域として使用してください。7ページの「[Sunopsisエンジン物理スキーマの構成](#)」を参照してください。

- 5 「ダイアグラム」を選択します。
- 6 「モデル」ビューで、ESSBASEまたはEssbaseSampleモデルから「ソース」ペインへ、Sample\_BasicMeasuresAsColumnsデータストアをドラッグします。  
自動マッピングを使用するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。
- 7 「はい」をクリックします。
- 8 自動でマップされなかった列を手動でマップします。

作業終了時のページの外観は、次の図のようになります。



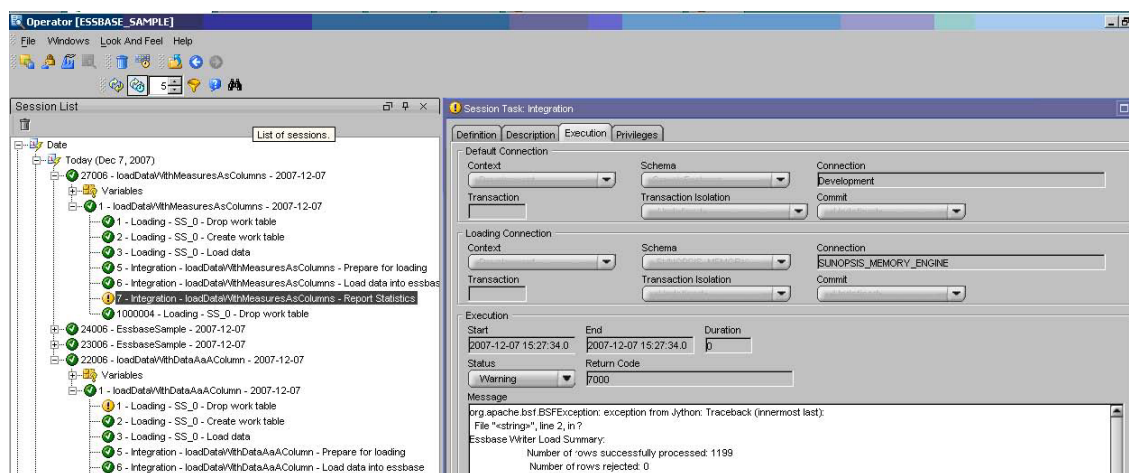
- 9 「フロー」で「SS\_0」を選択し、LKMがLKM File to SQLに設定されていることを確認します。
- 10 「ターゲット」を選択して、IKMがIKM SQL to Hyperion Essbase (Data)に設定されていることを確認します。
- 11 次のIKMオプションを設定します。
  - CALCULATION\_SCRIPT C:¥Essbase\_Samples¥Calc\_Scripts¥calcall.csc
  - POST\_LOAD\_MAXL\_SCRIPT C:¥Essbase\_Samples¥MAXL¥postmxl.mxl



- 12 「適用」をクリックします。
- 13 「実行」をクリックしてloadDataWithMeasuresAsColumnsインタフェースを実行し、コンテキストとしてDevelopmentを選択します。

## 14 Oracle Data Integratorオペレータで、インタフェースの実行結果を確認します。

次の図は、結果の外観を示しています。



## メタデータおよびデータをロードするためのパッケージの作成

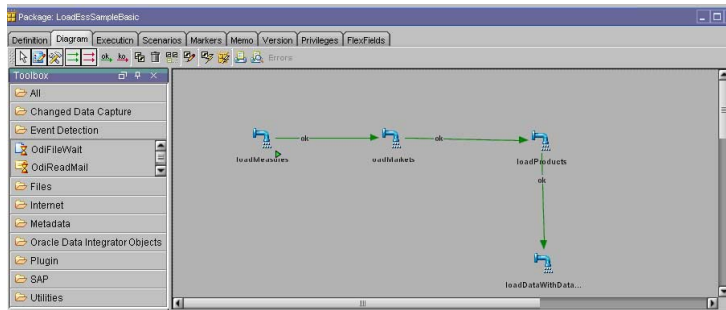
インタフェースをつなぎ合わせて1つのパッケージにし、単一の処理で実行できるようにすることが可能です。

- ▶ メタデータおよびデータをロードするためのパッケージを作成するには、次のようにします。

- 1 デザイナを起動します。
- 2 「パッケージ」を右クリックして「パッケージの挿入」を選択します。
- 3 パッケージにLoadEssSampleBasicという名前(または任意の名前)を付けます。
- 4 「ダイアグラム」を選択します。
- 5 loadMeasures、loadMarkets、loadProductsおよびloadDataWithDataAsAColumnの各インタフェースをダイアグラム領域にドラッグします。
- 6 「ok→」という緑の矢印を使用して、インタフェースを順番につなぎます。

- 7 「適用」をクリックします。

次の図は、このページの外観を示しています。



- 8 「実行」をクリックしてLoadEssSampleBasicパッケージを実行し、コンテキストとしてDevelopmentを選択します。

- 9 Oracle Data Integratorオペレータで、LoadEssSampleBasicパッケージの実行結果を確認します。

次の図は、オペレータでの結果の外観を示しています。

Status	Step number	Step name	Start	Duration	Time
Variables	1	extractEssbaseMeasures	2007-12-10	1	17

The session list on the left shows the following steps:

- Today (Dec 10, 2007)
- 96006 - LoadEssSampleBasic - 2007-12-10
  - Variable
  - 0 - loadMeasures - 2007-12-10
  - 1 - loadMarkets - 2007-12-10
  - 2 - loadProducts - 2007-12-10
  - 3 - loadDataWithDataAsAColumn - 2007-12-10
    - 22 - Loading - SS\_0 - Drop work table
    - 23 - Loading - SS\_0 - Create work table
    - 24 - Loading - SS\_0 - Load data
    - 26 - Integration - loadDataWithDataAsAColumn - Prepare for loading
    - 27 - Integration - loadDataWithDataAsAColumn - Load data into essbase
    - 28 - Integration - loadDataWithDataAsAColumn - Report Statistics
    - 1000025 - Loading - SS\_0 - Drop work table

## データを抽出するためのインタフェースの作成 (レポート・スクリプトを使用する場合)

- ▶ データを抽出するためのインタフェースを作成するには、次のようにします。
- 1 デザイナを起動して、EssbaseSampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。
  - 2 右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
  - 3 インタフェースにextractEssbaseDataWithDataAsAColumnという名前を付け、「最適化コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
  - 4 「ターゲットと異なるステー징領域」を選択して、環境に適したステー징領域を選択します。

### 注意:

トポロジ内でステーjing領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステーjing領域として使用してください。7ページの「Sunopsisエンジン物理スキーマの構成」を参照してください。

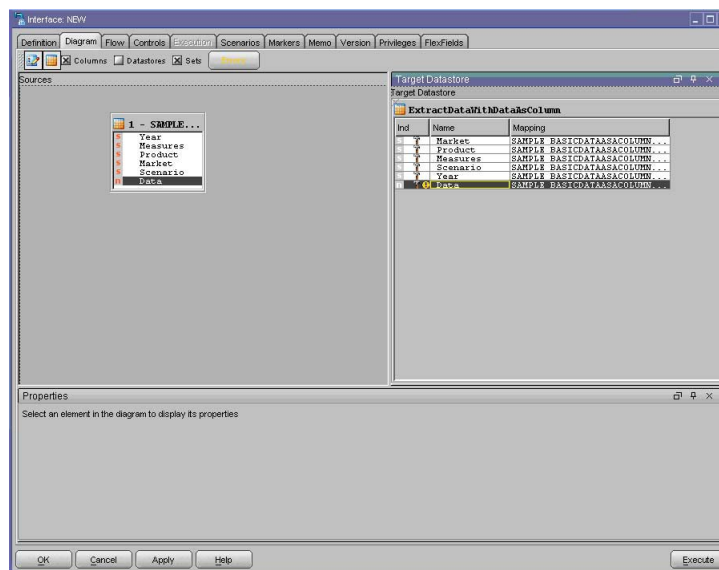


- 5 「ダイアグラム」を選択します。
- 6 「モデル」ビューで、FLAT\_FILESまたはESSBASE\_FLAT\_FILESモデルから「ターゲット・データストア」ペインへ、ExtractDataWithDataAsColumnデータストアをドラッグします。
- 7 EssbaseまたはEssbaseSampleモデルから「ソース」領域へ、Sample\_BasicDataAsAColumnソースをドラッグします。

自動マッピングを使用するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。

- 8 「はい」をクリックします。
- 9 自動でマップされなかった列を手動でマップします。

次の図は、このページの外観を示しています。



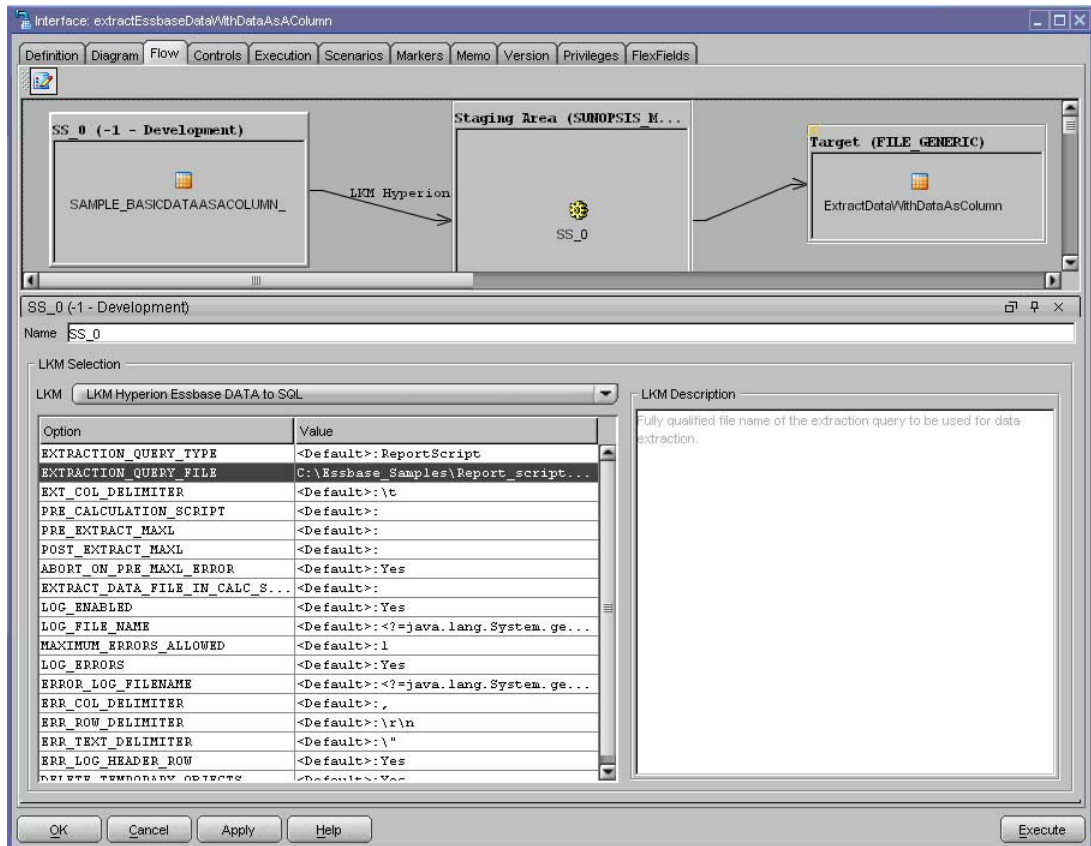
- 10 「フロー」で「SS\_0」を選択し、LKMがLKM Hyperion Essbase Data to SQLに設定されていることを確認します。
- 11 「ターゲット」を選択して、IKMがIKM SQL to Fileに設定されていることを確認します。



12 これらのロード・ナレッジ・モジュール(LKM)オプションを設定します。

EXTRACTION\_QUERY\_FILE

C:\¥Essbase\_Samples¥Report\_scripts¥extract.rep



**注意:**

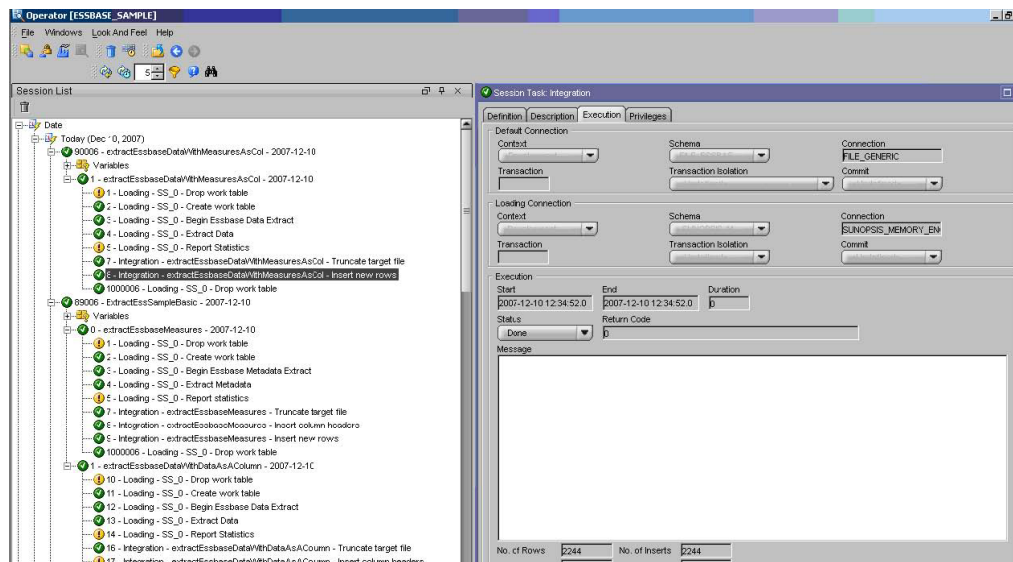
extract.repルール・ファイルはodiaess\_93110\_samples.zip内のrulesディレクトリに含まれています。抽出されるデータをさらに制限するには、レポート・スクリプトを変更してください。

13 「適用」をクリックします。

- 14 「実行」をクリックしてextractEssbaseDataWithDataAsAColumnインタフェースを実行し、「コンテキスト」でDevelopmentを選択します。

Oracle Data Integratorオペレータで、extractEssbaseDataWithDataAsAColumnインタフェースの実行結果を確認します。

次の図は、オペレータでの結果の外観を示しています。



- 15 extractDataWithDataAsColumn.csvファイルに、EssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースから抽出されたデータが含まれていることを検証します。

## データを抽出するためのインタフェースの作成（MDX問合せスクリプトを使用する場合）

- ▶ データを抽出するためのインタフェースを作成するには、次のようにします。

  - 1 デザイナを起動して、EssbaseSampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。
  - 2 右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
  - 3 インタフェースにExtractEssbaseDataWithMsrsAsCol2という名前を付け、「最適化コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
  - 4 「ターゲットと異なるステージング領域」を選択して、環境に適したステージング領域を選択します。

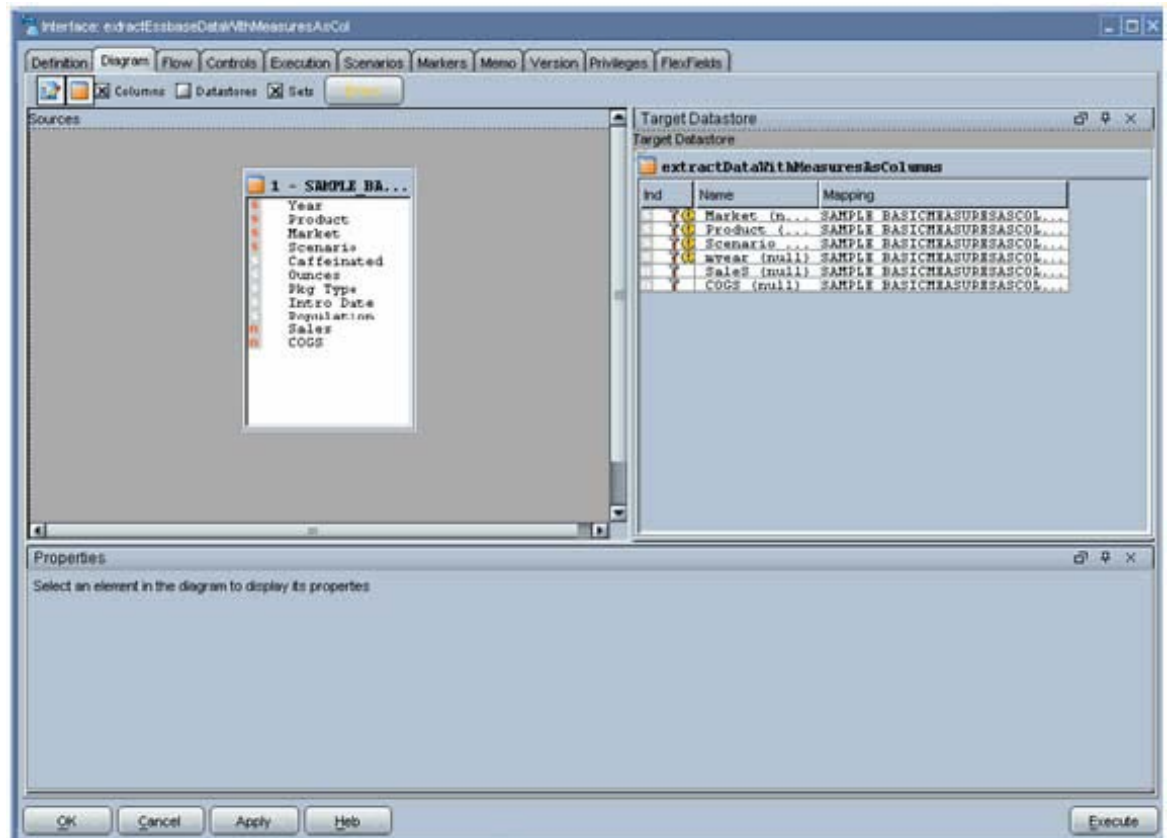
### 注意:

トポロジ内でステージング領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステージング領域として使用してください。7ページの「[Sunopsisエンジン物理スキーマの構成](#)」を参照してください。

- 5 「ダイアグラム」を選択します。

- 6 「モデル」ビューで、FLAT\_FILESまたはESSBASE\_FLAT\_FILESモデルから「ターゲット・データストア」ペインへ、extractDataWithMeasuresAsColumnsデータストアをドラッグします。
- 7 EssbaseまたはEssbaseSampleモデルから「ソース」領域へ、Sample\_BasicMeasuresAsColumnsソースをドラッグします。自動マッピングを使用するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。
- 8 「はい」をクリックします。
- 9 自動でマップされなかった列を手動でマップします。

次の図は、このページの外観を示しています。

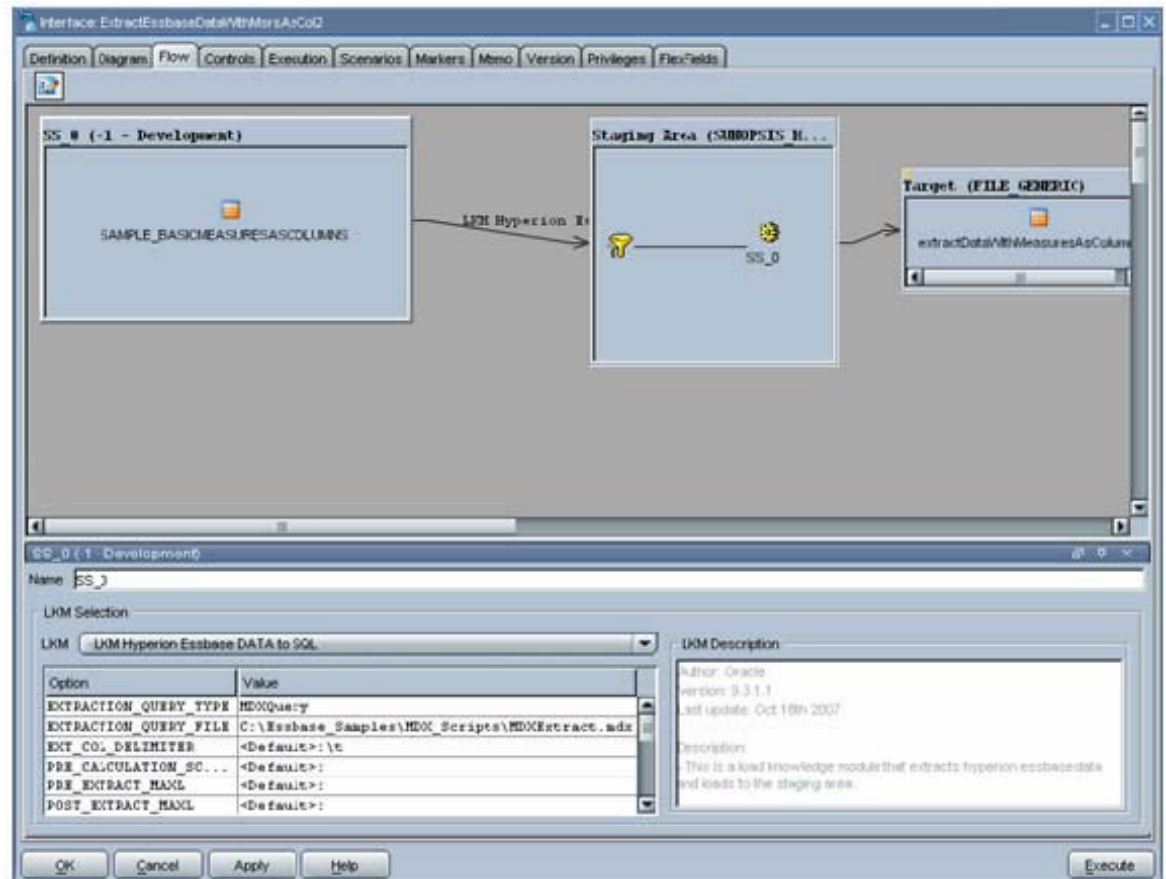


- 10 「フロー」で「SS\_0」を選択し、LKMがLKM Hyperion Essbase Data to SQLに設定されていることを確認します。
- 11 「ターゲット」を選択して、IKMがIKM SQL to Fileに設定されていることを確認します。

## 12 LKMオプションを設定します。

オプション	値	説明
PRE_CALCULATION_SCRIPT	空白 (デフォルト)	(オプション) Essbaseキューブからデータを抽出する前に実行する計算スクリプトを指定します。
EXTRACTION_QUERY_TYPE	MDXQuery	抽出問合せタイプ (レポート・スクリプト、MDX問合せまたは計算スクリプト) を指定します。  出力列に入力するすべてのデータをフェッチする、有効な抽出問合せを指定します。  最初のレコード (計算スクリプトの場合は最初の2つのレコード) には、抽出されたデータのメタ情報が含まれます。
EXTRACTION_QUERY_FILE	C:\¥Essbase_Samples¥MDX_Scripts¥MDXExtract.mdx	抽出問合せの完全修飾ファイル名を指定します。
EXT_COL_DELIMITER	\t (デフォルト)	抽出問合せの列デリミタを指定します。  このオプションの値が指定されていない場合は、空白 (" ") が列デリミタとみなされます。
EXTRACT_DATA_FILE_IN_CALC_SCRIPT	空白 (デフォルト)	このオプションは、EXTRACTION_QUERY_TYPEオプションで問合せタイプがCalcScriptとして指定されている場合のみ適用されます。  計算スクリプトによってデータが抽出される、完全修飾ファイルの場所を指定します。
PRE_EXTRACT_MAXL	空白 (デフォルト)	Essbaseキューブからデータを抽出する前にMAXLスクリプトを実行するには、このオプションを有効にします。
POST_EXTRACT_MAXL	空白 (デフォルト)	Essbaseキューブからデータを抽出した後にMAXLスクリプトを実行するには、このオプションを有効にします。
ABORT_ON_PRE_MAXL_ERROR	Yes	このオプションは、PRE_EXTRACT_MAXLオプションが有効化されている場合のみ適用されます。  ABORT_ON_PRE_MAXL_ERRORオプションがYesに設定されている場合、事前のMAXLスクリプトの実行中になんらかのエラーが発生すると、ロード・プロセスが中断します。
LOG_ENABLED	Yes	このオプションがYesに設定されている場合は、LKMプロセス中に、LOG_FILE_NAMEオプションで指定されたファイルにロギングが行われず。

オプション	値	説明
LOG_FILE_NAME	<?=java.lang.System.getProperty(java.io.tmpdir"?>/Extract_<%=snpRef.getFrom()%>.log (デフォルト)	LKMプロセスのイベントを記録するファイルの名前を指定します。
MAXIMUM_ERRORS_ALLOWED	1 (デフォルト)	抽出を停止するまでに無視するエラーの最大数を設定するには、このオプションを有効にします。
LOG_ERRORS	No (デフォルト)	このオプションがYesに設定されている場合、LKMプロセス中に、ERROR_LOG_FILENAMEオプションで指定されたファイルにエラー・レコードの詳細が記録されます。
ERROR_LOG_FILENAME	<?=java.lang.System.getProperty(java.io.tmpdir"?>/Extract_<%=snpRef.getFrom()%>.err	LKMプロセスのエラー・レコードの詳細を記録するファイルの名前を指定します。
ERR_LOG_HEADER_ROW	No (デフォルト)	このオプションがYesに設定されている場合は、列名が含まれるヘッダー行がエラー・レコード・ファイルに記録されます。
ERR_COL_DELIMITER	, (デフォルト)	エラー・レコード・ファイルに使用する列デリミタを指定します。
ERR_ROW_DELIMITER	\r\n (デフォルト)	エラー・レコード・ファイルに使用する行デリミタを指定します。
ERR_TEXT_DELIMITER	\" (デフォルト)	エラー・レコード・ファイルの列データに使用するテキスト・デリミタを指定します。  たとえば、テキスト・デリミタが '"' (二重引用符) として設定されている場合は、エラー・レコード・ファイルのすべての列が二重引用符で区切られます。
DELETE_TEMPORARY_OBJECTS	No (デフォルト)	統合後に一時オブジェクト (表、ファイルおよびスクリプト) を保持するには、このオプションをNoに設定します。  このオプションはデバッグに役立ちます。



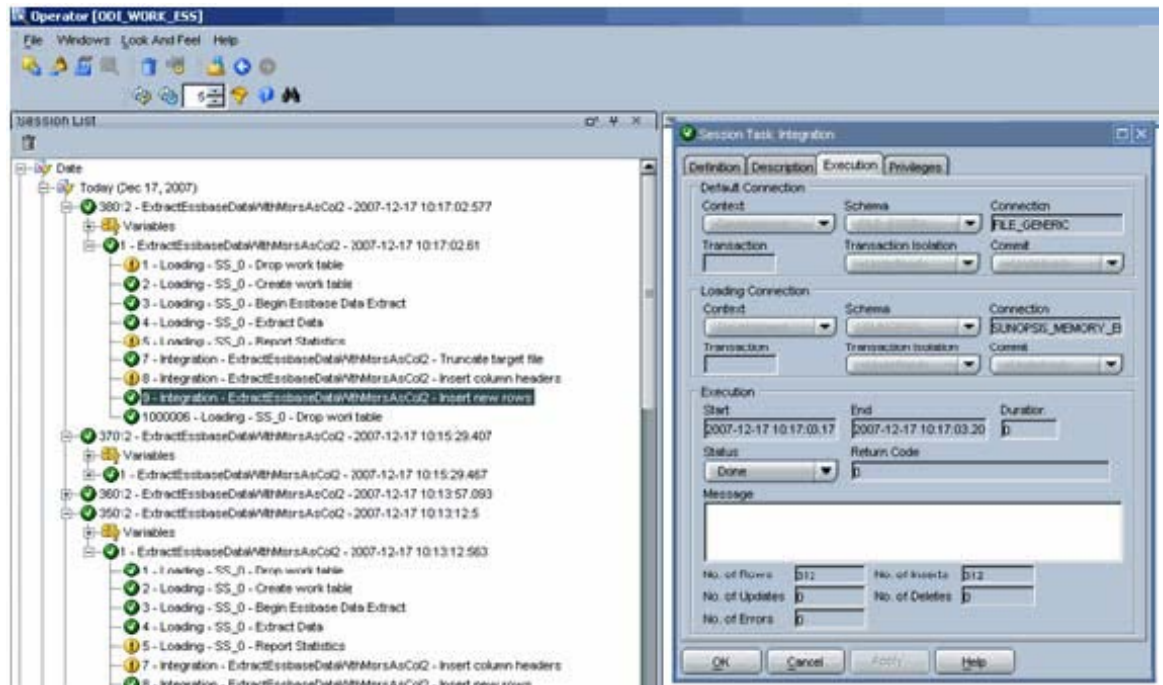
**注意:**

MDXExtract.mdxルール・ファイルは、odiaess\_93110\_samples.zip内のMDX\_Scriptsディレクトリに含まれています。

- 13 「適用」をクリックします。
- 14 「実行」をクリックしてExtractEssbaseDataWithMsrAsCol2インタフェースを実行し、「コンテキスト」でDevelopmentを選択します。

- 15 Oracle Data Integratorオペレータで、ExtractEssbaseDataWithMtrsAsCol2インタフェースの実行結果を確認します。

次の図は、オペレータでの結果の外観を示しています。



- 16 extractDataWithDataAsColumn.csvファイルに、EssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースから抽出されたデータが含まれていることを検証します。

## データを抽出するためのインタフェースの作成（計算スクリプトを使用する場合）

### 注意:

計算スクリプトを使用してデータを抽出するには、EssbaseサーバーとOracle Data Integratorエージェントが同じコンピュータ上で稼働している必要があります。

- ▶ データを抽出するためのインタフェースを作成するには、次のようにします。
- 1 デザイナを起動して、EssbaseSampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。
- 2 右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
- 3 インタフェースにextractEssbaseDataWithMeasuresAsColという名前を付け、「最適化コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
- 4 「ターゲットと異なるステージング領域」を選択して、環境に適したステージング領域を選択します。



**注意:**

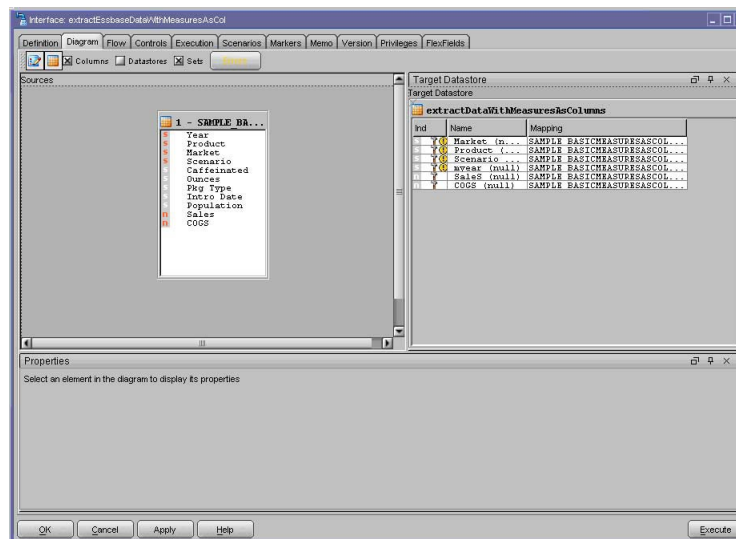
トポロジ内でステージング領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステージング領域として使用してください。7ページの「Sunopsisエンジン物理スキーマの構成」を参照してください。

- 5 「ダイアグラム」を選択します。
- 6 「モデル」ビューで、FLAT\_FILESまたはESSBASE\_FLAT\_FILESモデルから「ターゲット・データストア」ペインへ、extractDataWithMeasuresAsColumnsデータストアをドラッグします。
- 7 EssbaseまたはEssbaseSampleモデルから「ソース」領域へ、Sample\_BasicDataAsAColumnソースをドラッグします。

自動マッピングを使用するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。

- 8 「はい」をクリックします。
- 9 自動でマップされなかった列を手動でマップします。

次の図は、このページの外観を示しています。



- 10 「フロー」で「SS\_0」を選択し、LKMがLKM Hyperion Essbase Data to SQLに設定されていることを確認します。
- 11 「ターゲット」を選択して、IKMがIKM SQL to Fileに設定されていることを確認します。



12 これらのLKMオプションを設定します。

オプション	値	説明
PRE_CALCULATION_SCRIPT	空白（デフォルト）	（オプション） Essbaseキューブからデータを抽出する前に実行する計算スクリプトを指定します。
EXTRACTION_QUERY_TYPE	CalcScript	抽出問合せタイプ（レポート・スクリプト、MDX問合せまたは計算スクリプト）を指定します。  出力列に入力するすべてのデータをフェッチする、有効な抽出問合せを指定します。  最初のレコード（計算スクリプトの場合は最初の2つのレコード）には、抽出されたデータのメタ情報が含まれます。
EXTRACTION_QUERY_FILE	C:\Essbase_Samples\Calc_Scripts\ExtData.csc	抽出問合せの完全修飾ファイル名を指定します。
EXT_COL_DELIMITER	,	抽出問合せの列デリミタを指定します。  このオプションの値が指定されていない場合は、空白 (" ") が列デリミタとみなされます。
EXTRACT_DATA_FILE_IN_CALC_SCRIPT	C:\Essbase_Samples\Data\Calcextract.csv	このオプションは、EXTRACTION_QUERY_TYPEオプションで問合せタイプがCalcScriptとして指定されている場合のみ適用されます。  計算スクリプトによってデータが抽出される、完全修飾ファイルの場所を指定します。
PRE_EXTRACT_MAXL	空白（デフォルト）	Essbaseキューブからデータを抽出する前にMAXLスクリプトを実行するには、このオプションを有効にします。
POST_EXTRACT_MAXL	空白（デフォルト）	Essbaseキューブからデータを抽出した後にMAXLスクリプトを実行するには、このオプションを有効にします。
ABORT_ON_PRE_MAXL_ERROR	Yes	このオプションは、PRE_EXTRACT_MAXLオプションが有効化されている場合のみ適用されます。  ABORT_ON_PRE_MAXL_ERRORオプションがYesに設定されている場合、事前のMAXLスクリプトの実行中になんらかのエラーが発生すると、ロード・プロセスが中断します。
LOG_ENABLED	Yes	このオプションがYesに設定されている場合は、LKMプロセス中に、LOG_FILE_NAMEオプションで指定されたファイルにロギングが行われます。

オプション	値	説明
LOG_FILE_NAME	<?=java.lang.System.getProperty(java.io.tmpdir"?>/Extract_<%=snpRef.getFrom()%>.log (デフォルト)	LKMプロセスのイベントを記録するファイルの名前を指定します。
MAXIMUM_ERRORS_ALLOWED	1 (デフォルト)	抽出を停止するまでに無視するエラーの最大数を設定するには、このオプションを有効にします。
LOG_ERRORS	Yes	このオプションがYesに設定されている場合、LKMプロセス中に、ERROR_LOG_FILENAMEオプションで指定されたファイルにエラー・レコードの詳細が記録されます。
ERROR_LOG_FILENAME	<?=java.lang.System.getProperty(java.io.tmpdir"?>/Extract_<%=snpRef.getFrom()%>.err	LKMプロセスのエラー・レコードの詳細を記録するファイルの名前を指定します。
ERR_LOG_HEADER_ROW	No (デフォルト)	このオプションがYesに設定されている場合は、列名が含まれるヘッダー行がエラー・レコード・ファイルに記録されます。
ERR_COL_DELIMITER	, (デフォルト)	エラー・レコード・ファイルに使用する列デリミタを指定します。
ERR_ROW_DELIMITER	\r\n (デフォルト)	エラー・レコード・ファイルに使用する行デリミタを指定します。
ERR_TEXT_DELIMITER	" (デフォルト)	エラー・レコード・ファイルの列データに使用するテキスト・デリミタを指定します。  たとえば、テキスト・デリミタが'"' (二重引用符) として設定されている場合は、エラー・レコード・ファイルのすべての列が二重引用符で区切られます。
DELETE_TEMPORARY_OBJECTS	No (デフォルト)	統合後に一時オブジェクト (表、ファイルおよびスクリプト) を保持するには、このオプションをNoに設定します。  このオプションはデバッグに役立ちます。

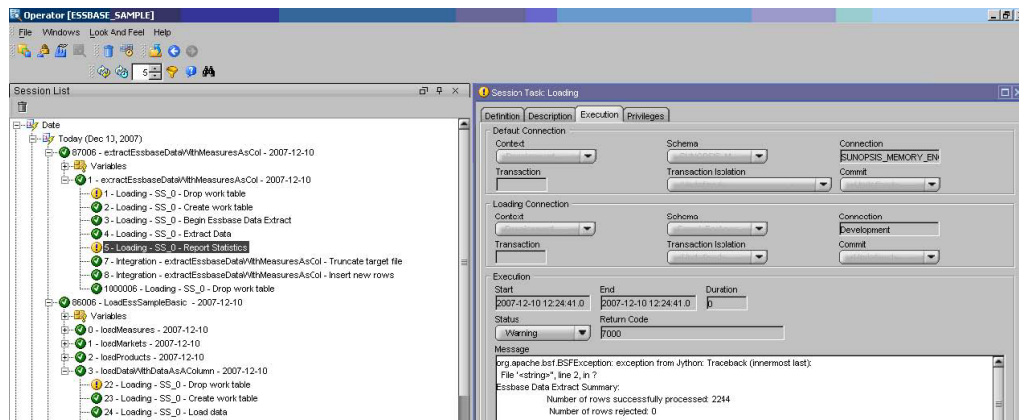
**注意:**

ExtData.cscルール・ファイルは、odiaess\_93110\_samples.zip内のCalc\_Scriptsディレクトリに含まれています。

- 13 「適用」をクリックします。
- 14 「実行」をクリックしてextractEssbaseDataWithMeasuresAsColumnsインタフェースを実行し、「コンテキスト」でDevelopmentを選択します。

- Oracle Data Integratorオペレータで、extractEssbaseDataWithMeasuresAsColumnsインタフェースの実行結果を確認します。

次の図は、オペレータでの結果の外観を示しています。



- extractDataWithDataAsColumn.csvファイルに、EsbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースから抽出されたデータが含まれていることを検証します。

## メタデータを抽出するためのインタフェースの作成

EsbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースからメタデータを抽出するためのインタフェースを作成できます。

- ▶ メタデータを抽出するためのインタフェースを作成するには、次のようにします。
  - デザイナを起動して、EsbaseSampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。
  - 右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
  - インタフェースにextractEssbaseMeasuresという名前を付け、「最適化コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
  - 「ターゲットと異なるステージング領域」を選択して、環境に適したステージング領域を選択します。

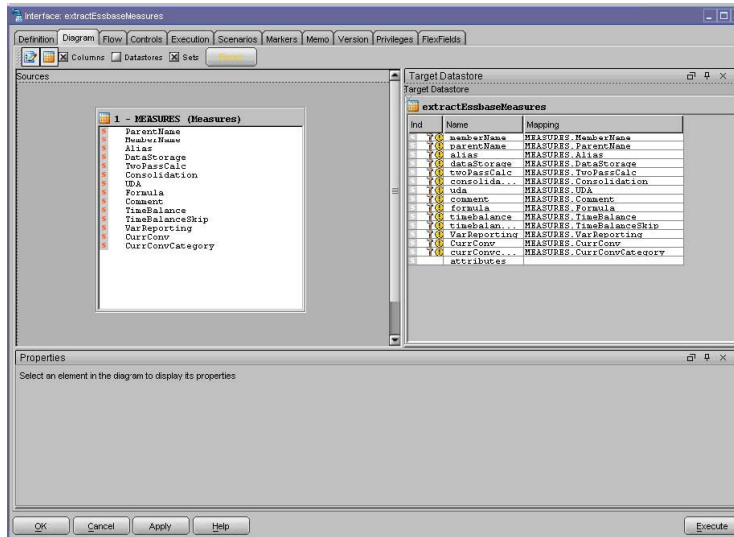
### 注意:

トポロジ内でステージング領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステージング領域として使用してください。7ページの「[Sunopsisエンジン物理スキーマの構成](#)」を参照してください。

- 「ダイアグラム」を選択します。
- 「モデル」ビューで、FLAT\_FILESまたはESSBASE\_FLAT\_FILESモデルから「ターゲット・データストア」ペインへ、extractEssbaseMeasuresデータストアをドラッグします。
- EsbaseまたはEsbaseSampleモデルから「ソース」領域へ、Measuresソースをドラッグします。  
自動マッピングを使用するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。

- 8 「はい」をクリックします。
- 9 自動でマップされなかった列を手動でマップします。

次の図は、このページの外観を示しています。



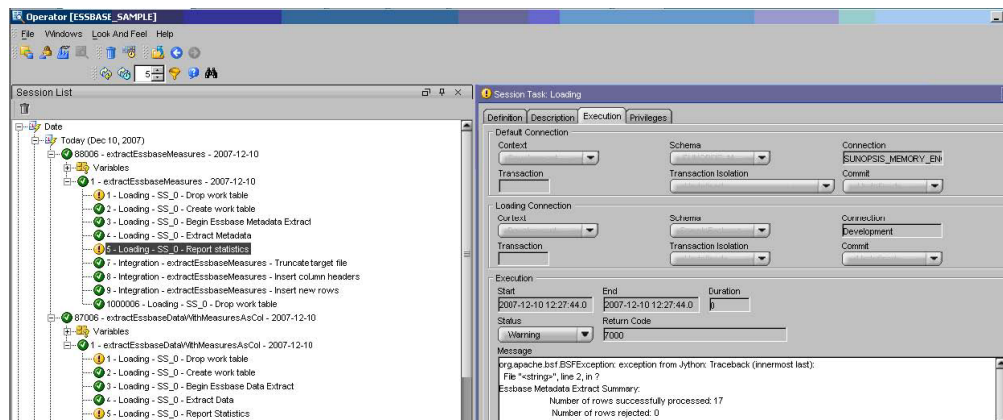
- 10 「フロー」で「SS\_0」を選択し、LKMがLKM Hyperion Essbase (Metadata) to SQLに設定されていることを確認します。
- 11 「ターゲット」を選択して、IKMがIKM SQL to File Appendに設定されていることを確認します。
- 12 これらのIKMオプションを設定します。

オプション	値	説明
INSERT	Yes	インタフェースのターゲット・データストアにデータを自動挿入するには、このオプションを有効にします。
TRUNCATE	Yes	このオプションがYesに設定されている場合は、ターゲット・データストアの切捨てまたはターゲット・ファイルの作成、あるいはその両方が行われます。
GENERATE_HEADER	Yes	このオプションがYesに設定されている場合は、ターゲット・ファイルに、列名を表示するヘッダ行が挿入されます。

- 13 「適用」をクリックします。
- 14 「実行」をクリックしてextractEssbaseMeasuresインタフェースを実行し、「コンテキスト」でDevelopmentを選択します。

- 15 Oracle Data Integratorオペレータで、extractEssbaseMeasuresインタフェースの実行結果を確認します。

次の図は、オペレータでの結果の外観を示しています。



- 16 MeasuresExtract.csvファイルに、EssbaseのSampleアプリケーションおよびBasicデータベースから抽出されたデータが含まれていることを検証します。

## メタデータおよびデータを抽出するためのパッケージの作成

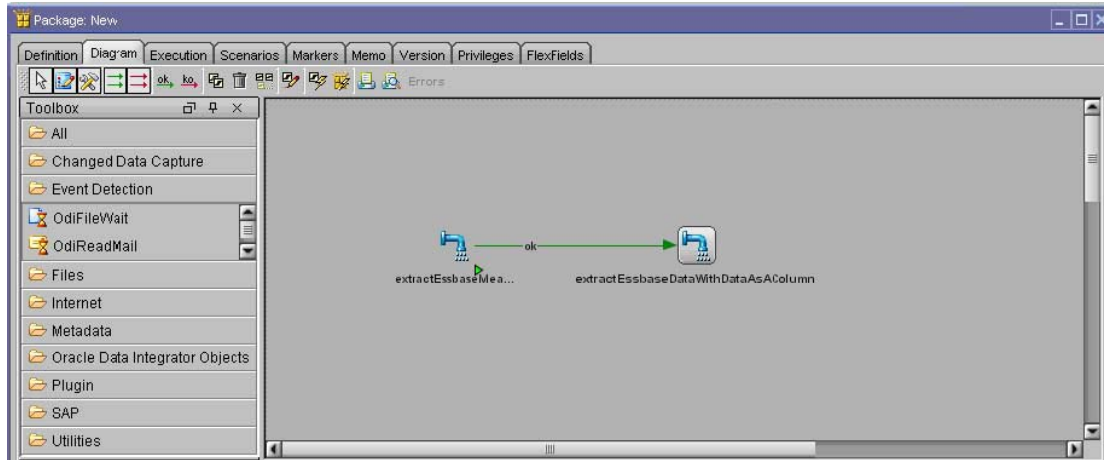
インタフェースをつなぎ合せて1つのパッケージにし、単一の処理で実行できるようにすることが可能です。

- ▶ メタデータおよびデータを抽出するためのパッケージを作成するには、次のようにします。

- 1 デザイナを起動します。
- 2 「パッケージ」を右クリックして「パッケージの挿入」を選択します。
- 3 パッケージの名前(たとえばExtractEssSampleBasic)を入力します。
- 4 「ダイアグラム」を選択します。
- 5 extractEssbaseMeasuresインタフェースおよびextractEssbaseDataWithDataAsAColumnインタフェースをダイアグラム領域にドラッグします。
- 6 「ok→」という緑の矢印を使用して、インタフェースを順番につなぎます。

7 「適用」をクリックします。

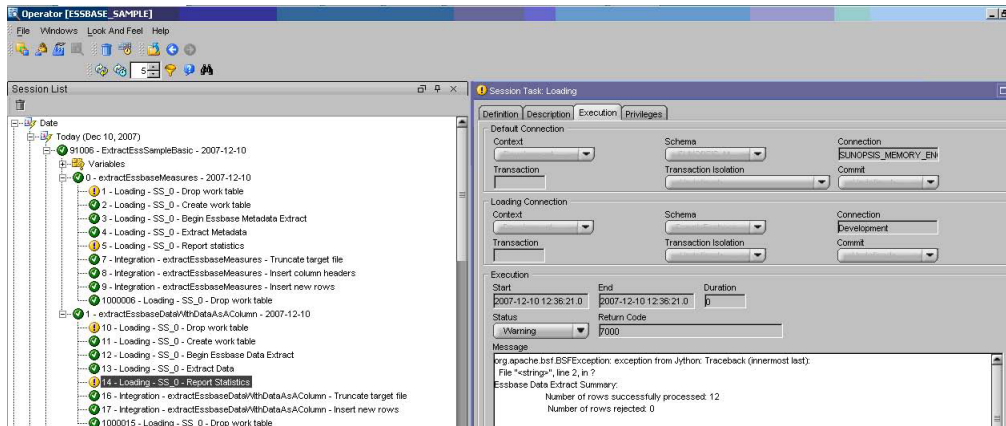
次の図は、このページの外観を示しています。



8 「実行」をクリックしてExtractEssSampleBasicパッケージを実行し、「コンテキスト」でDevelopmentを選択します。

9 Oracle Data Integratorオペレータで、ExtractEssSampleBasicパッケージの実行結果を確認します。

次の図は、オペレータでの結果の外観を示しています。



10 extractEssbaseDataWithDataAsAColumn.csvファイルおよびMeasuresExtract.csvファイルに、OracleのHyperion Essbase - System 9アプリケーションから抽出されたデータおよびメンバーがそれぞれ含まれていることを検証します。

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Essbase スタート・ガイド, リリース9.3.1.1

部品番号: E06148-01

2008年5月

原本名: Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Essbase Getting Started, Release 9.3.1.1.0

原本著者: Data Integration Management writing team

Copyright © 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありません。

このプログラムは、第三者のWebサイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者のWebサイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。